キャリアパス委員会　年会企画報告

２年の任期を振り返って思うこと

第一期キャリアパス委員会の委員長としてのお役目は、2013年元日と共にはじまり2014年末日と共に終了しました。キャリアパス委員会は、第18期理事会の発足に伴い、大隅典子理事長のアイデアに基づいて設置された委員会で、17期まで続いた「男女共同参画委員会」と、研究倫理委員会の傘下にあった「若手教育問題ワーキンググループ」を前身とします。課せられたミッションは、若手・中堅が直面する問題を掘り起こし、その改善策を老若男女共に考えること。扱うテーマは、‘キャリアパス’に限らず幅広く、無病息災、商売繁盛、学問成就、はたまた縁結び、と、多数の願掛けをあつかう神社みたいなもの、といえば判りよいかもしれません。発足からまだ2年ということで、その成果の善し悪しを現時点で問うことは難しいかもしれませんが、「男女共同参画」「若手教育」ともが抱えていた「マンネリ」傾向の解消法という意味では、理事長の案は的を射ていたといえるでしょう。学問においても学際化が推奨されるようになって久しいのは周知の事実で、何事も長期にわたり一所に留まっていては、良い発想も良い結果も得られません。

第一期委員会のメンバーは、私を含め12名。委員の任命は委員長の独断で、ということで責任重大ではありましたが、多くは「男女共同」と「若手教育」のメンバーで、皆さん快く引き受けてくださり、苦労は全くありませんでした。敢えて言うまでもなく、委員全員が生粋の、そして気鋭の生命科学研究者であり、若手（及び中堅）問題のエキスパートではありません。しかし、若手（及び中堅）が抱える問題の深刻さを日頃から実感し、何か良い策はないものかと親身になって思案する、あるいはしようと努めてくれる面々でした。年に数回会議を開き、ああでもない、こうでもないと知恵をしぼり、ランチョン企画を練り、実行してきました。2013年のテーマは「研究テーマ」と「バイオベンチャー」、2014年は「キャリアパス」と、もう一つは、表向きは多少ベールをかけたつもりですが「研究倫理」に絡んだものでした。御陰様でいずれの企画も好評で、アンケートでは多くのポジティブコメントをいただきました。御来場いただきました会員の皆様には御礼を申し上げます。2014年の企画に関する詳細はfacilitatorをつとめてくださった岩崎渉委員（東大）と小林武彦委員（遺伝研）が別途、総括をしてくださることになっています。是非、御一読ください。

例年のランチョン企画に加えて、18期はもう一つ、男女共同参画実態調査報告書をまとめ世に送り出すという大役も仰せつかりました。「男女共同参画学協会連絡会」という会をご存知でしょうか。通常「連絡会」と呼ばれていますが、分子生物学会をはじめ60程の学会が加盟する団体で、その名のごとく、研究者コミュニティーにおける男女共同参画を推進することをミッションとしています。2012年の暮れ、この「連絡会」は第3回科学技術系専門職の男女共同参画実態調査（通称、大規模アンケート）を実施しました。その調査結果は2014年5月にすでに冊子として公表されていますが、その中から日本分子生物学会会員2,448名分（全体の15%に相当）の回答を抽出、分析し、そして公表するという作業を行ったのです。これまでと異なり、生データの抽出と図表化、および予備分析は外部に委託する旨を聞いておりましたので安易に考えていましたが、いざ報告書をまとめる段階に至ってはじめて、まずその情報量の多さに冷や汗をかき、その後は仕事の煩雑さにうなされっぱなしでしたが、連絡会担当の井関祥子委員（医科歯科大）、小野弥子委員（都医学研）、および大規模アンケート解析ワーキンググループに特別参画してくださった石井優委員（阪大）、岩崎渉委員、佐藤健委員（群馬大）の御尽力が得られ、無事、11月に「第3回日本分子生物学会男女共同参画実態調査報告書」を発行することが出来ました。

表紙を淡いクリーム色にし、分子生物学会のマークをカラーで入れ、タイトルには大いばりで「日本分子生物学会」の文字を入れてみました。2,448名の本学会会員の回答を抽出し分析したのですから全くもって合理的な変更点だったと思います。ちょっとした視覚の問題ですが、つい手に取ってページをめくって見てみたくなる装いになったのではないかと自負しています。肝心の中身はどうか、ですが、形式を統一化し、年号を全てふせて左右において比較検討するとします。すると、おそらく、どちらが第2回（2007年）のものでどちらが新しいものかを言い当てることは何人にも難しいのではないか、と容易に想像させるくらい保存性が高いことに気がつきました。何かに気がつくことは良いことです。頑張って報告書を完成させた甲斐があったといえます。ただ、男女共同参画に関する、科学者コミュニティーのこれまでの活動の費用対（あるいはATP対）効果を考えると、もう少し改善された部分があっても然りなのでは、というのが私の、まことに個人的な率直な感想です。我が国で意識的に男女共同参画が唱われるようになって10年余りの年月が過ぎました。参考になるお手本が身近にあったわけでもなく、手探り状態でここまで来たというのが正直なところでしょう。即効性がみられなくても仕方がない、という意見もありだと思います。が、女性の

活躍推進が国家レベルで重点化された今、効率よく成果を生み出す、より洗練されたストラテジーが欲されつつあることは言うまでもありません。女性の当事者意識の向上も重要な課題だとおもわれます。数年後の第4回目の報告書にどのような変化がみられるか。今から楽しみでもあります。

昨年横浜年会でのランチョン企画のテーマは「キャリアパス」と「研究倫理」に絡んだもの、でした。研究倫理、そして研究不正。私の2014年は文字通りこれらのキーワードと共にはじまり、そして終わりました。実に奇妙な一年でした。この狂気を帯びた喧噪はどのように収束するのか。答えを知る由もなく、よって考えるだけ無駄だと判っていてもくりかえし自問する毎日でした。が、素知らぬ顔で2015年ははじまり、研究不正問題も何とはなしに幕が閉じられようとしています。そしてこの現状に少なからぬ戸惑いを感じたりもしています。理研16億円予算削減というネット上の文字に‘ほほー’と声にならぬ声を上げ、僅減と知れば、まあ世の中そんなものだよね、と変に納得しつつ、タレントデビューらしい、と聞けば、御慕い申す御師匠様の有り難き御言葉はどこへいったのか、赤い靴は疾うの昔に魔力を失ったか、と余計なことを考えたり。。。静電気を帯びた安物のスカートのように嫌な感じでまとわりつき、なかなかすっきりと消え去ってはくれません。

50数年も生きてくると、いろいろな理不尽に出会います。自分をfoolするやり方もそれなりに習得し、多くはやり過ごすことも出来るようになりました。が、最近‘思うこと’がひとつあります。それは、長年まじめに、そして真摯に研究をしてきた我々に課せられた、理解し難い連帯責任のようなもの、つまり、5年間だか7年間だか知りませんが、膨大な、全ての生データを、屑同然であろうとなんであろうと、なけなしの研究資金を費やしてまでも温存すべし、とか、博士論文は全て嘘発見器にかけるべし、とか、そういった諸々のこと、ですが、これは御上に従って実行しなくてはならないのでしょうか、ということです。当の本人たちはいいですよね。それくらいの義務が課せられたってどうってことはありません。が、私達も？何も悪いことしてないのに？全く理不尽だとしか言いようがありません。

それでなくても研究・教育に忙しいのに余計な仕事を増やしてくれるな、というのが正直なところです。真面目に研究に没頭してきた人たちは、そういった新しいルールも大事だから皆で守らなくてはね、と真面目に受け止め、真面目に実行しようとします。一方、平気で不正をするような人たちは、まるで他人事の様に振る舞い、他人を訴えることしか頭にないようです。

長年まじめに、そして真摯に研究を続けてきた人たちは、これまで通りまじめに、そして真摯に研究をすればいいのではないでしょうか。日々行う実験はノートに記載し、データは手元に保存する、コピペ発見器を専攻で購入する必要もありません。それより大事なことは多々あって、例えば、学生の研究環境を整える、この方がよっぽど重要です。古い建物の1階の端にある私の研究室には、毎年春先になると“訪問客”がやってきます。廊下では小さな団体が甘いものを求めて行進をし、ショウジョウバエを夕食にしたいしっぽをもった生物とベンチで思わず目が合ったりします。その横でpiRNAを扱う学生の手には、RNA分解を避けるためのディスポの手袋、そして白衣もまとっています。

我々にとって本当に大事なことは何なのか。それを考えることが大事なのだとあらためて学べたことは収穫だったと思う今日このごろです。

最後になりましたが、事務局の福田さんをはじめ、並木さん、山口さん、丸田さんに心より感謝致します。彼らのサポート無くしてキャリアパス委員長としての役を成し得ることは出来ませんでした。2年間大変お世話になりました、有り難うございました。

キャリアパス委員会
委員長　塩見美喜子

【博士の多様なキャリアパスを切り開く】

●日　時：2014年11月26日㈬　11：45～13：00
●会　場：パシフィコ横浜　会議センター3階
　　301（第2会場）
●講　演：
「博士号は民間企業でも有用か？ ～大学のキャリア支援を活用したPh.D.からの報告～」
　谷澤　欣則（日本イーライリリー株式会社 研究開発／医学科学本部）
「博士が社会で多彩に活躍！ ～大学で博士人材のキャリア支援をしてきた立場から～」
　森　　典華（名古屋大学社会貢献人材育成本部ビジネス人材育成センター）

本年度のキャリアパス委員会主催企画の第一は、年会二日目に開催したランチョンセミナー「博士の多様なキャリアパスを切り開く」でした。キャリアパス委員会は若手・女性研究者を取り巻く問題について広い観点から議論することを目的として第18期より組織されましたが、その中でも本テーマは委員会名にもなっている「キャリアパス」について正面から扱ったものとなりました。当日は学生や若手研究者を中心に多くの方に興味を持っていただき、定員286名の会場に超満員となる約310名の参加がありました。

本ランチョンセミナーでは、二つの異なる視点からの講演の後に、恒例となったケータイアナライズシス

テムによる双方向パネルディスカッションを行いました。谷澤氏による一つ目の講演では、海外ポスドクを経て民間企業に就職し、複数の企業にわたってキャリアを構築してきた“主観的な”観点から経験をお話しいただきました。さらに、森氏による二つ目の講演では、多くの博士のキャリアパスに関するサポートを活発に行ってきた“戦略的な”観点から講演をいただきました。両講演は参加者アンケートでも非常に好評で、キャリアパスに対する意識が大きく変わったという意見が多数ありました。当日参加できなかった方も、書き起こしが分子生物学会のウェブサイトに掲載される予定ですので、是非そちらをご覧ください（http://www.mbsj.jp/admins/committee/careerpath/index.html）。博士として培ってきた能力をどのように活かすか、そして自分が何をやりたいのかを改めて見定め、主体的に動きつつ幅広く考えていくこと。そして、その過程では色々な人の助力を得ていくことが可能であるとともに、そうすることが実際に極めて重要であること。キャリアパスの切り開き方に関する本質的なメッセージが伝わる素晴らしい講演でした。

続いて、講演をいただいた谷澤氏、森氏のほか、キャリアパス委員から塩見、井関、佐藤、東山、柳田、岩崎が登壇し、会場との双方向パネルディスカッションを行いました。選択式の設問は「設問１：将来のキャリアパスに不安を感じていますか？」「設問２：アカデミアでの就職へのこだわりの強さは？」「設問３：博士として国や職場（会社 / 研究機関）を変えつつキャリアアップしていくことをどう思いますか？」「設問４：自分のキャリアパスについて相談できる人は誰ですか？」「設問５：キャリアパスを切り開くために、あなた自身がこれから伸ばす必要があると思う力は？」で、回答を短くまとめると、「キャリアパスには不安を抱えているが、職場や国をキャリアの過程で変えることはポジティブに捉えている。アカデミアへのこだわりは強くなく、相談は友人や先輩にすることが多く、様々な能力を高める必要があると考えている」となりました。なお、参加者属性は学部生と大学院生を合わせて６割超、ポスドクまたは非研究室主宰者（非PI）の任期付き職がおよそ２割でした（詳細なデータは本会報の後のページに記載されています）。

キャリアパスに不安を持つことはいつの時代も変わらないことだとは思いますが、少し驚きだったのは、安定志向というよりは職場や国を変えることをポジティブに捉えている意見がかなり多かったことでした。谷澤氏と森氏の講演にもあったように、そういったキャリアパスを構築する上では、博士号というのは少なからず役に立ってくる資格と言えるでしょう。また登壇者一同やや気になったのは、キャリアパスについて指導教員やPIに相談できるとした割合が高くなかったことでした。指導教員やPIの多くはメンバーが多様なキャリアパスで活躍することを応援してくれると思いますし、一方で、指導教員やPIの側も多様なキャリアパスについて相談を受けやすい雰囲気を出すことが必要でしょう。もちろん、実際にはどうしても相談が難しいケースもありますので、その場合には、大学の相談室などを積極的に活用していただければと思います。最後の設問の「これから伸ばす必要がある力」については満遍なく回答がありましたが、中でも、プロジェクトマネージメント・文章執筆力・プレゼンテーションスキルについては比較的票数が少ない結果となりました。いずれも、アカデミアに限らず創造的・指導的な職で活躍する上で必須な力ではないかと思いますが、あまり重要ではないと考えられているのか、あるいは既に十分に身に付いていると考えられているのか、これもやはり少し気になるところでした。また自由記述のコメントからは、キャリアパスに関する率直な不安のほか、企業所属の方からの有用な博士人材像に関するコメントなど、様々なご意見をお寄せいただきました。今回のランチョンセミナーでは扱えませんでしたが、結婚や出産も男女を問わず学生・若手研究者にとっては気になるトピックでしょう。当日は時間に限りもあり全てを取り上げることはできませんでしたが、いずれも今後も検討していくべきトピックだと考えています。

博士号というものは一人ひとりが未知の問題を設定し、それを解決して得られるものであることを考えれば、博士のキャリアパスに一般的な答えがないということはある意味で自然なことでもあります。そういった中でも、本ランチョンセミナーを通じて一人でも多くの方が前向きな展望を抱き、具体的な行動へとつながっていったならば、望外の喜びです。

（文責：座長・岩崎　渉）

〈アンケート〉　集計結果（四捨五入しています）

【問１】あなたの年齢は？

① 24 歳以下	74	31.9%
② 25 ～ 29 歳	64	27.6%
③ 30 ～ 34 歳	29	12.5%
④ 35 ～ 39 歳	30	12.9%
⑤ 40 ～ 49 歳	17	7.3%
⑥ 50 ～ 59 歳	15	6.5%
⑦ 60 歳以上	0	0.0%
※ 未記入	3	1.3%
計	232	100.0%

【問２】あなたの身分・職階は？

① 学部学生	28	12.1%
② 大学院生（修士）	47	20.3%
③ 大学院生（博士）	56	24.1%
④ ポスドク	23	9.9%
⑤ 大学教員（助教・講師・准教授）	34	14.7%
⑥ 大学教員（教授）	13	5.6%
⑦ 研究員	7	3.0%
⑧ 主任研究員・チームリーダー・室長以上	2	0.9%
⑨ 企業	12	5.2%
⑩ その他	8	3.4%
※ 未記入	2	0.9%
計	232	100.0%

【問３】このセッションを何で知りましたか？（※複数回答可）

① 学会ホームページ	47	16.9%
② 年会ホームページ	47	16.9%
③ 会報	8	2.9%
④ プログラム集	115	41.4%
⑤ ポスター	9	3.2%
⑥ 会場内の広告	43	15.5%
⑦ フェイスブック	0	0.0%
⑧ クチコミ	7	2.5%
⑨ その他（年会アプリ）	1	0.4%
※ 未記入	1	0.4%
計	278	100.0%

【問４】このセッションを開催した時間帯はどうでしたか？

① ランチョン形式でよかった	222	95.7%
② ランチョン以外の時間帯がよかった	8	3.4%
※ 未記入	2	0.9%
計	232	100.0%

【問５】前半の講演はいかがでしたか？

① とても面白かった	91	39.2%
② まあまあ面白かった	86	37.1%
③ 普通	38	16.4%
④ あまり面白くなかった	5	2.2%
⑤ つまらなかった	2	0.9%
※ 未記入	10	4.3%
計	232	100.0%

【問６】後半のディスカッションはいかがでしたか？

① とても面白かった	76	32.8%
② まあまあ面白かった	81	34.9%
③ 普通	30	12.9%
④ あまり面白くなかった	10	4.3%
⑤ つまらなかった	1	0.4%
※ 未記入	34	14.7%
計	232	100.0%

【問７】今後このような試みを続けるべきだと思いますか？

① 是非続けるべき	186	80.2%
② 続けるべきだが方法を変えた方が良い	31	13.4%
③ やめた方が良い	1	0.4%
④ わからない	5	2.2%
※ 未記入	9	3.9%
計	232	100.0%

【問８】このセッションに関する感想をお聞かせください。

・博士課程の人の就職の多様な道が今後は開かれていく可能性もあるのだと知ることができて良かった。
・博士に不安を感じている人が多いことが分かって良かった。調べることが大事だと思った。
・多様な話が聞けて参考になった。
・若い人達がポジティブになるセッションだったと思う。
・行動が大切だと感じた。
・現在、院に進学するかも迷っていたので将来のビジョンができてよかった。会場に来ている方達の意見や立ち場を聞くこともでき、とても良かった。
・色々な進路があることがよくわかった。
・非常に参考になるものばかりだった。参加して良かった。
・博士のキャリアについて視野がとても広くなったと思う。自分もキャリアセンターなど多くの人と関わりをもってキャリアについて考えたいと思う。
・キャリア選択には非常に役立つと思う。
・Ph.D をとるまでに身についた能力をどう生かしたらいいか、何が生かされるのか、自分の中であいまいだったので、講演を聞いて少しクリアになった。
・博士課程後の将来について深く考えることができた。
・具体例と共にキャリアパスの説明を聴けたので、分かりやすかった。
・支援側の方からのお話が聞けたのはとても良い経験になった。
・いろいろな人の意見や悩みが聞けて楽しかった。参考になった。
・色んな立場の人の話が聞けてよかった。
・普段からこの問題は考えてきたのでためになった。
・博士過程に進むことについて漠然とした不安を感じていたが、少し光がさしたような気がした。
・自分の強みを考えてみようと思った。
・ただ研究を続けるばかりでなく、幅広く行動すると共に、多くの人の意見を取り入れていこうと感じた。
・多くの人の意見や具体的なキャリアパスについて知ることができた。
・大変参考になった。ありがとうございました。今後も是非このような企画をお願いします。

・視野が広がってとても良かった。
・具体的な内容で参考になった。
・企業のニーズが分かってとてもよかった。
・自分自身、いまだにキャリアパスについて迷いがあるので、とても役立った。
・多様なキャリアパスについて知る機会の重要性を認識した。周りのサポートや相談することはもちろん大切だが、自ら行動すること、考えることがやはり一番大切であると思い直した。
・多くの有識者の方の様々な意見が聞けてよかった。
・大学外（研究系以外）への就職の実例、数字等に実際に触れる初めての機会だったので興味深く思った。改めて自分のキャリアパスを見直してみようと思う。
・がんばれそうな気がした。
・内容は正直目新しいものではなかったが、まとめてこういう話をする場を作るのはとても良いことだと思う（誰かが動き出すチャンスになるので）。
・将来について考えるきっかけになった。
・博士に対する見方が変わった。
・このような機会が増えるといいなと思った。
・自分を知るってことが大切だなと思った。
・状況を変化させてみるということに積極的・支援的な意見がほとんどで驚いた。アカデミックな道でもそのような考えが多いと可能性が広がり魅力的に思えた。
・とても有意義だった。ポスドクのあとでも次のキャリアを考えて調べる方法など知ることができてよかった。
・自分と同じような悩みをもつ人が沢山いることに少し安心した。もっと自分から行動を起こして、キャリアを切り開いていきたい。
・知っていること、わかっていることもあったが、大切なことを再確認できた。
・具体的な解決策はないが、話し合いや考え続けることが大事であると感じた。
・D1 なのでまだ就職まで意識がいかないのが現状だが、今後、動くときの方法が少し具体化したと思う。
・修士の私にとって大変満足の内容だった。キャリアを考える時期で不安に思っている。何とか切り開きたいと思った。
・今回のセミナーで多くの人が自分と同じような疑問、不安を持っていることがわかって良かったし、キャリアについて考えてくれる人が多くいることがわかって良かった。
・変化への耐力・体力、人間力のメッセージ、大事にします。
・「わらしべ長者」の考え方で、気が楽になった。自分の働く場に条件を求めたり、今の自分の足りない所で諦めたりするのでなく、後からでも経験を積んで成長していこうと思う。
・参考になったと思う。今後博士課程に進んだ際に生かしたいと思う。（講演）
・とても参考になるセッションだった。ただ、博士へ行くことのメリットばかり強調するのではなく、そもそも進むことへの不安を持つ人も多いので、デメリットへの対策にも言及してほしかった（年齢など）。
・博士のキャリアパス…？博士は企業には必要とされていないのかと思っていましたが、最近は雇用があることがわかった。
・いつもの変わりばえしない内容だった。キャリアパスを聞いていると、ポスドク→ベンチャーの流れしか感じないが、他に普通の企業に普通の就職をしたケースなども含めたらよいのでは？
・企業ノンリサーチの分野では博士卒は修士卒以上のメリットが、企業にとっては実情ないと感じられていると思う。博士課程中の人材教育の充実に力をかけてほしいと思う。
・自身の今後のキャリアについての話の参考になった点は良かった。（講演）具体性に欠けることが多いためあまり参考にならなかった。（ディスカッション）多くの人の意見を聞けたという意味では有意義だったと思う。
・もっと具体的な話をしたほうがいい。海外ポスドクから就職された例はよかったが、もっと深く Discussion をして掘り下げたかった。
・あまり参考にならなかった。アカデミアで成功した人も呼ばないとフェアではない。
・アカデミアに対するキャリアパスの説明がないので残念だった。この形式では企業への就職が「逃げ」のように見えてしまう。
・考え方が選択肢の一つとして参考になるが、大々的に不安が取り除かれるみたいな安心感にはつながらないと言うか、漠然としている気がする。
・個人の努力には限界があるので Dr. の活動できる場を公的な機関が広げる努力をしてほしい。
・実際にキャリアパスを実現された方のご発表をもっと増やして欲しい。
・具体的な不安解消法などに言及がなかった。「このような進路がある」ということより、どの程度の能力がある、どんな強みがある人はどこに行くことが多いといったことを見せてほしいと思った。
・ためになる話もあったが、もっと博士やポスドクになるのを迷って、結局企業に行った人、もっと言えば研究職以外に行った人とか来てほしい。同じ様な道筋を来た人ばかりではつまらない。
・海外のデータばかりで国内のデータが少ないのが残念。
・自分は希望していたのではないのにアカデミア職に就いた。研究ができなくて（能力がなくて）悩んでいる。みんな研究したい人なのか。職は望んだようにいかない。タイミングで何が起こるかわからない、と思う。
・一番問題なのは受け皿が小さいことだと思う。
・学生の立場からも教員の立場からも典型的形や方法はなく、常にそれぞれが考え意識づけることが大事。しかし、悩んでいる立場にある人にとっては、具体例を示して欲しいと常に思っていると思う。また、指導教員も同じ悩みを抱えているだろう。終わりのない課題である。
・どんな PI の下に就くかで大きく変わってくるかも。

・個別事例の話がもう少しあればなお良かったと思う。
・PhD 取得後数年分のビジョンのみ提示され、あとは他職への誘導という未来を示すのであれば、研究を続けようというモチベーションが得られない内容だと感じた。
・そもそもアカデミアと企業というくくり分けが古いようにも思う。
・どこか新参者が入りにくい、風土はあるのかなと。
・私が所属する弱小大学の大学院では、余裕がなく、学生のキャリア支援に立った大学院教育の実現に困難さを感じている。どのような指導を学生に与えるのが望ましいのか？
・参加できない人にも内容を HP で知らせたい。ロールモデルの実例をたくさん HP 等で公開してほしい。
・理系大学生（1 ～ 4 回生、学部生）向けに、修士、博士取得後の進路がどういうものなのかをオープンにしていくような本・Web ページなどを作ってほしい。
・司会の岩崎さんが、とても語り口がスマートでかっこよかったです！
・塩見先生のご意見がとても印象的だった。同じ女性として参考になる。
・森先生の講演はとても面白かった。
・森先生の話しが、楽しく、またためになった。
・森先生のお話しがとてもよかった。森先生自身が、アカデミアからどのように転身したのかとても興味がある。自分は、（PI に特になりたくはないが）PI になるべき年齢と立場。森先生のお話の「実現したいことは何なのか」「優先順位をつける」というのを自分なりに考えてみようと思う。
・相談室を訪ねてみようと思った。
・私の大学はキャリア支援課があるので今後利用しようと思った。
・大学の進路支援室の対象が学部生～修士までということもまま有るので、大きなくくりのそれが有れば、というの（講演内容）は非常に共感した。
・名古屋大学、進んでますね。すばらしいと思う。
・名大生なのでまたいつかお世話になりたいと思った。
・名大の取り組みは、名大に限らず、他大学の人も対象にしている点が良いと思った。
・キャリアパス支援プログラムを、全国の大学や他の学会でも広く発信して下さい！
・名古屋大のようにキャリアパスをサポートしてくれるようなシステムがもっといろいろな大学にできてほしいと思う。
・キャリアパスをサポートする機関があることを知って良かった。
・キャリアパスを就職のタイミングより早く具体的に考えることが大切だと感じる。母校の学生の話を聞く、対話する中で感じる。
・様々な支援機関を知れて良かった。
・職場の若手にアドバイスする参考になった。私自身にもためになった。
・学部生、修士学生への情報発信をしたいと思う。是非いろいろな仕組みをお考え下さい。
・学生と接する事でどのように学生を指導すればよいかが参考になった。
・大変よかった。学生のキャリアをサポートする立場としてとても参考になった。
・年々重要性が増してきていると思う。
・男女共同参画からよい方向へ発展されている。
・前半なしでも良いと思う。
・会場との交流が良い。
・自分自身が参加している実感が得られて良い。企業などキャリアについても知れて良い。
・ディスカッションがとても良かった。企業の研究者としても、考えさせられる事が多かった。
・前回のディスカッションが活発でとてもおもしろかった。
・Web を使ったアンケートが良かった。
・会場の意見をリアルタイムで拾うシステムを採用しているのは面白いと思います。
・メッセージを送る形式はおもしろいと思った。
・メールを使った双方向ディスカッションは大変良いと思う。
・リアルタイムでコメントを読めるのが良かった。
・その場でアンケート結果が見えるのはよかった。
・匿名なので腹をわったコメントができてよい。
・リアルタイムで意見・感想を発信できるのはとても良いと思った。
・オンラインでアンケートをとって、その場でそのデータをもとにディスカッションする形式はよいと思った。自由に書かれた質問にももっと答えられると良いと思った。
・とてもおもしろい企画だったので、会場からの質問、コメントを拾う時間をとってほしかった。
・せっかくなのでもう少しコメントを拾っても良いと思った。
・コメントに対して答えて頂く時間をもっと長くしてほしい。
・コメント側を中心に話を広げるべきでは…？
・リアルタイムで意見を反映するシステムは面白かった。
・会場からのコメントを拾う時間がもう少し長くても良いかと思った。
・アンケートの回答をもう少し効果的にとり上げてほしかった。司会の方が漠然と拾いすぎていた印象。
・もう少しコメントに関して話してもらえるとよりよくなるのではと感じた。

・メールでリアルタイムに寄せられたコメントについて全く拾ってもらえなかった種の質問があったことは非常に残念だった。最悪の結末（行方不明など）を迎えてしまう人達の割合など、ドクター進学を考えている人達が究極的に不安であると感じていることについてもう少し具体的な言及がほしかった。「アカデミックポストに就けないのではないか…」よりも、「十年、二十年後の生活があるのか…」を多くの方は気にしていると思う。
・せっかくコメントを入れても、それを生かしきれてない気がする。
・コメントメールの文字数制限はない方がいいと思った。あと解決できたコメントは消去する機能があると見やすいかもと思った。
・ケータイの質問（設問）のコメントよりも、会場からのコメントに言及する時間をとった方がよい。
・もう少し盛り上がるような雰囲気作りが必要だと思った。参加型だけど ROM が大半。
・モデレーターの方が進行を上手くマネージメントできていないと感じた。フロアーからの質問を独り言のようにつぶやくのではなく、質問からもっとパネリストの意見を引き出す事に集中した方が良かったと思う。
・質問とディスカッションが形式的で、内容があまりないように感じた。
・もっと自由記述に対するコメントが聞きたかった。
・パネルディスカッションがテンポが遅く、用意されていた質問の内容も一般的すぎて、先生方からの返答もどこでも聞けるような意見しか聞けなかった。パネリストの数が多いのも意味がない。
・パネルディスカッションを行うのであれば、事前に（学会の HP などで）アンケートをとったり、質問を募集した方がいいのではないかと思う。HP での事前予約などにしたらいかがか。
・去年同様、こちら側のコメントを拾って答えてくださる時間が少なかったのが残念。こちらが一番聞きたいのはそこだと思う。
・パネラーの方々が自分の言いたい事を言ってるだけで、質問に全く答えていなかった気がする。考えてきたカンペをそのまま読んでる気がした。
・PhD キャリアの多様性を伝えるのであれば、実際に PhD を取得後にアカデミア以外の職種に就いた方をパネラーとして起用しても良いと思った。
・後半の方で、悩みを抱えているものについて経験談を聞くってことは参考になりやすい。
・パネラーに、失敗例の立場で意見を述べる方がいらっしゃらなかったのが残念。どうやったらダメ、失敗するかという（成功事例ではない）視点が、必要かも。
・企業からも複数人パネリストがほしい。
・パネリストの発言を要約でスクリーンに表示して頂けると、耳の聞こえない人がとても助かります。
・講演→まとめる方向が若干強引？
・あらかじめ質問を受け付けておく方が時間の節約ができてよいのではないか。
・ディスカッションの場に同席する機会だけでもとても貴重だった。参加してみると意外に時間が足りなくなり、もっと聞いてみたいと思った。
・後半、もっと多くの質問に答えるようにしてほしかったし、研究者の方々に質問に積極的に答えてほしかった。
・大変楽しませていただき、勉強になった。もう少し時間が長ければと思う。
・パネリストにもっと積極的に意見を出してほしかった。
・時間が短いせいか、演者のせいか、早口な人が何人かいると感じた。
・もっと内容を絞るべきだと思う。聞きに来た方の不安とか、ちゃんと答えてほしい。
・もう少し先生方のディスカッションが聞きたかった。
・もっと後半のディスカッションに時間をとるべきだと思った。
・後半のディスカッションの時間が短く、もう少し話を聞きたかった。
・もっとパネルディスカッションの時間を延ばしてほしい。
・大きなテーマを扱っているため、もう少し時間をとった方がいいと思った。
・時間が短いせいか、やはり抽象的かなと思った。
・質（設）問が多すぎたかもしれない。もう少し論点を絞って深く議論できればと思った。
・おもしろかった。もっと長くても良い。
・非常に有意義だった。時間が短く、質問の全てに対する回答が聞けなかったのが残念。
・毎回時間が少ない。
・もう少し時間があれば、もう少し充実する。
・興味深い内容が多かったので、またもう少しゆっくり時間をかけてこういう場を設けていただけると嬉しい。
・もう少し時間が欲しかった気がする。
・もっと長い時間やって欲しい。
・非常に面白かった。
・すごく良い機会だった。
・とても面白かった。
・よかったと思う。
・今後の参考にする。
・参考になった。
・最高。

【問９】来年以降のセッションで取り上げて欲しいテーマがあればお教えください。

・（今回と）同じようなテーマ
・似たテーマ
・修士の就職について
・博士号を持つ人のキャリアチャンス、キャリア支援をどうやって本格的に取り組むかについて、社会全体が認識するようにアピールする
・企業にいる博士のキャリアパス
・就職活動の際に博士がどのように動いたか
・学部・修士のために博士の魅力を教えてもらえるようなテーマ
・ポスドク、助教から次のステップが狭き門となっているが、アカデミアでチャンスを求めている人がうまく残っていくポイントは何か
・修士卒と博士卒の違い
・博士、ポスドクがキャリアパスした後、どの程度の人々が happy に生活しているか
・アカデミアへのキャリアパス
・アカデミアに対するキャリアパスの説明
・アカデミアにこだわる理由（研究の先駆者になりたい、ロマン etc）についても議論して欲しい
・多様な進路に進まれた方の話（研究以外）
・研究者以外への転職や職の安定と研究者のそれを比較すること
・「キャリアの選び方」から「多様なキャリアで活躍する姿を紹介」に重心を移すといい
・30 ～ 40 代で PI 職を目指している人向けのテーマ
・オーバードクター問題について我々（アカデミックで研究している者）が国へ訴えることができることは何なのか
・博士が持っているべき具体的に必要なスキル等
・日本に関するデータ（就職等）
・デメリットへの対策
・失敗例
・就職先の例
・博士やポスドクを積極的に採用している企業の人事部長クラスの方の話や講演
・普通の企業に普通の就職をしたケースなども含めたテーマ
・企業内での経験談を主体にしたもの
・経済的な話題について（博士号を取るまで・取ってから）
・中小企業側の話
・大企業、ベンチャーの人にも話してもらう
・ノンアカデミアの人を呼んで意見交換
・企業など、採用する側のパネラーや講演者も欲しい
・社長（CEO）が外国人の会社 / 研究所における Ph.D. の採用に関することを話せる人を講師として呼ぶ
・技術員など
・何らかのハンディキャップを持っている人達について
・企業で活躍している PhD、谷澤さんの例のようなケーススタディ
・モラトリアムで Dr に入った学生のモチベーションをどう上げるか
・大学の相談室での対応例
・学生相談カウンセラーとの連携
・学生のキャリア支援に役立つ大学院教育とはどういうものか？
・海外の研究機関の情報
・留学のススメ
・海外留学について
・博士からの海外留学について
・海外ポスドクをやることについての不安
・海外ポスドクに行くべきか否か
・海外ポスドクについて（同コメント計 2 件）
・海外ポスドク→企業、国内ポスドク→企業、博士取得後すぐに企業、という例や割合、その場合どのような企業に就職しているのか、就職後にアカデミアへ戻る例
・研究者のワークライフバランス
・女性の博士後について（出産、結婚）etc…
・女性で Ph.D をとった方の話（キャリアパスとライフバランス）
・子供を持つ女性研究者のキャリアパスについて
・結婚
・男女格差や子育て支援
・ライフイベントで少しキャリアのペースダウンをしたいときに、選択肢が無いように思える研究職ではどうしたらよいか

・ロールモデルをもっと（本人が）提示してほしい
・キャリアパスに対する国の動きの違い（日本と欧米を比較したときなど）

【問 10】本年会での属性調査（添付資料）をご覧になった感想をお聞かせください。

・多様な人がいると思った。
・しっかりしてれば男女関係ないと思う。
・そこまで気にする必要はないのではと思った。
・女性比率を上げることが大事というわけではないのではないか（本質的じゃない）。
・一般演題は自発的なのか？ PI から半ば強制的という人も中にはいるかと思う。
・これも毎回変わりばえしない。女性比率を無理に上げる流れの結果、今は女性＝男性と同等に働かなくてはならなくなっている→その結果、子育てしながら男性と同等に働かなくてはならないようになって、現場からは悲鳴しか聞こえてこない。特に女性限定ポストに就いた人はその後のキャリアパスもなくて大変。この問題はどうするのか？
・この資料では、無理に女性を増やすことを目的としていると感じる。順番が逆では？女性が働きやすい環境作りが、女性研究者の本質的な能力底上げにつながるはず。人数が少ないのは結果であって原因ではないと思う。
・女性研究者が活躍する社会（職場）環境を整える必要がある。
・予想通りだと思う。よい研究者を国として育てたいなら、もっとフォローが必要だと思う。
・男女共同参画やワークライフバランスについてもっと掘り下げて考えた方が良いと思った。
・女性研究者へのサポートが必要である事を感じた。
・より女性が進出して、男社会な現状を変えていけるとよい。
・男女比が 1:1 になるといい。
・女性の活躍が少ない。
・もっと女性を。
・自分も女性研究者なので頑張りたいと思う。
・皆、同じような不安や心配を抱えているのだと感じた。
・オーガナイザーが女性の比率が少ない？となっているが、職階で教授が多いので、教授の男女比を考えるとこのくらいになるのかと思う。
・オーガナイザー、スピーカーとも、女性の参画という点については本質的にはあまり大きくは改善していないと感じている。
・シンポジウムオーガナイザーの年齢層（ワークショップの分かもしれないが）が予想より幅広かった。
・学生会員から正会員になる男女比をみると女性が減っている。研究職に就く女性の少なさを痛感した。
・学生会員の女性率が高くて良いと思った。
・学生会員で女性は結構いるが、正会員になると少なくなってしまっていると思う。
・別の所で聞いた話だが、アカデミアにおいてキャリアが上がるほど女性の割合が減っていく。添付資料の 4）でポスターからシンポジウム（指定）に向かって女性割合が減っていくのがそれを反映していると感じた（ポスターは学部生や修士が多いと思うが、口頭発表はポスドク、PI の方が多いと思う）。
・女性％の少なさ。若い方（学部や修士の方）が多いが、それよりあとの人数がそれ程多くない、つまり、アカデミックに残る人（残れる人）の割合が少ないということか。
・学生会員と正会員（主にアカポス？）の男女比に大きな差があるのは、女子学生がアカポスへ就く、目指す体制が不十分なのではと感じた。
・参加者人数・学会員数の時系列データを出してくれるとよい。
・女性を既婚者かそうでないかを分けてデータを出せば、有益なデータを得られると思う。
・子供を持つ研究者の割合を知りたい（男性の割合も）。
・技術員の演者が少ないと思う。テクニシャンの地位（？）ももっと上がるべきだと思う。
・もっと企業参加者を増やし、求職者とのコミュニケーションを図ってもよいのではと思う。
・日本の研究分野で女性研究者が活躍している気がしている。
・今後ぜひ継続してほしい（1 回だけでは判断できない）。
・毎年属性調査を続けていて資料を目にしているが、本来この資料は「全員」が目を通すべきものなので、すべての口頭発表のセッションの椅子の上に置いておくなどもっと広報すべき。
・ある程度想像通りだった。
・このくらいの比率が現実かなと思う。
・学生の指導の参考になる。
・非常に分かりやすかった。
・分かりやすくて良かった。
・わかりやすかった。
・興味深いデータだと思う。
・おもしろいと思う。
・良かった。
・見やすく、具体的に記述されているので良いと思う。
・6）が最も参考になった。
・6）のグラフが少し見にくい気がした。

・6）の年齢・職階カテゴリーの男性、女性のバーが色別が見にくい。
・男女の色分けが見づらかった。
・白黒でグラフ等が分かりづらい部分がある。
・グラフの色付けがコントラストが小さく見にくい。
・カラーの方が見やすいと思う。
・カラーにしてほしい。
・字や図が小さくて見づらかった。
・特になし（同コメント計３件）

【問 11】その他、ご自由にどうぞ。

・（本アンケートの選択肢について）まあまあを付けられると選びづらい。5 段階の数字の方が良いのでは？
・（本アンケート【問 2】の選択肢について）「⑨企業」とひとくくりにされるのが少し寂しい。アカデミアは企業を下に見ているように感じてしまう。
・スマホをもってない人もいる。あたりまえのようにスマホでセッションを進められるのはちょっと困った。
・ぜひこのアンケートも Web で…
・公式アプリ（年会アプリ）があるので、回答などはそっちでできるとよかった。
・参加整理券に QR コードがあるのに気づかないまま回収されてしまった。このアンケート用紙等に QR コードを載せていただけたら良かった。
・専用ホームページのアドレスを配布して欲しかった。
・毎年、アンケートの結果もしっかりまとめて下さり、回答している甲斐がある。
・セミナーと関係ないことだが、いただいたクリアファイルが面白い（笑）（名古屋出身なので…）
・Wi-Fi がつながるとメールや回答しやすいので…。
・Wi-Fi があれば良かった。
・Wi-Fi が弱いのがいけない。
・食べながらは辛かった。
・お弁当おいしかった。ごちそう様でした。
・弁当おいしかった
・ごちそうさまでした。
・ありがとうございました。
・今年も準備・運営お疲れ様でした。来年度も宜しくお願いします。

〈ケータイアナライズシステム〉　集計結果（四捨五入しています）

設問 0．皆さんの属性について教えてください。

・学部・修士課程在学	62	40.8%
・博士（後期）課程在学	34	22.4%
・ポスドクまたは非 PI の任期付き職	31	20.4%
・PI 職または任期無し職	9	5.9%
・企業	14	9.2%
・その他	2	1.3%
計	152	100.0%

設問 1．将来のキャリアパスに不安を感じていますか？

・不安を感じている	105	69.5%
・不安を感じていないわけではないが、気にしていない	35	23.2%
・不安は感じていない	11	7.3%
計	151	100.0%

設問２．アカデミアでの就職へのこだわりの強さは？

・アカデミア以外は考えていない	15	10.1%
・アカデミア外もぼんやりと考えている	67	45.0%
・アカデミア外も具体的に考えている	38	25.5%
・アカデミア外をメインに考えている	29	19.5%
計	149	100.0%

設問３．博士として国や職場（会社 / 研究機関）を変えつつキャリアアップしていくことをどう思いますか？

・魅力あるキャリアパスとして捉えている	94	63.5%
・経験を積めるのは良いが、海外に出るのは避けたい	23	15.5%
・国は問わないが、一つの職場でキャリアを重ねたい	17	11.5%
・国内の一つの職場でキャリアを重ねたい	14	9.5%
計	148	100.0%

設問４．自分のキャリアパスについて相談できる人は誰ですか？（複数回答可）

・親や家族など	68	24.8%
・指導教員・PI	73	26.6%
・先輩や友達など	93	33.9%
・大学の相談室など	15	5.5%
・特にいない	25	9.1%
計	274	100.0%

設問５．キャリアパスを切り開くために、あなた自身がこれから伸ばす必要があると思う力は？（複数回答可）

・専門的知識・技術	86	17.6%
・多様な課題の分析や提案	79	16.2%
・コミュニケーション	75	15.4%
・プロジェクトマネージメント	46	9.4%
・語学力・国際的な交流経験	93	19.1%
・文章執筆力	52	10.7%
・プレゼンテーションスキル	57	11.7%
計	488	100.0%

コメント一覧

No	ハンドルネーム	コメント
1	Ohara	アカデミーの具体的な仕事内容について知りたいです。 iPhone から送信
2	halim	私は博士課程進学予定ですが教員免許を持っており、学位取得後はアカデミックに残るか教員になろうと考えています。保険があるからこそ研究に打ち込むことができていると思います。
3		企業がどのような専門技術を求めているのか、具体的に知りたいです。
4	来年度就活の博士二年	博士課程に上がり、様々な知識やスキルを身につけた方のに、むしろ企業に就職しにくいこの現状をどう考えますか　とてもじゃないけど、ポスドクの選択肢が選べません。iPhone から送信
5	sukn	博士課程に進むに当たり、その後の就職や将来に不安があります。どのような機会、場所で博士号が活かされるのか知りたいです。
6	halim	バイオベンチャーの業界はどれくらい将来が安定しているのでしょうか。

No	ハンドルネーム	コ　メ　ン　ト
7	ドラゴンズ	こうゆう場なので良いことしか話さないと思うのですが、ポスドク全体の内何割が就職先が見つかるのですか　ポスドクになった何割が失踪や自殺するという話もよく聞くのですが、マイナス面も話すべきだと思います。iPhone から送信
8	MIRAI	森先生のご発表、とても良かったです。私は企業で働く研究者ですが、社会の中で、自分が実現したいことを具体的に提案し、チームで実現できる人材は企業にも多くはいません。そういう能力を在学中、ポスドクで身に付けることは、難しいかもしれませんが、世の中の様々なことに興味を持ち続けて頑張ってください。
9	Vet	アメリカのポスドクの統計じゃなくて日本のポスドクの進路の統計はないのかなあ
10		現在、博士後期課程に所属しており、来年度から就職します。企業で留学させてもらい、その後にいずれはアカデミアに戻りたいと考えています。企業就職からアカデミアに戻ることはどれぐらい難しいでしょうか ??
11		このディスカッションのためだけに来ました。海外と日本の比較について聞きたいです
12		出産、結婚のタイミングが難しいです。不安…
13	Vet	結婚とか出産とかのタイミングが難しいのが不安
14		学会で人脈を築きたいのですが、なかなかきっかけがわかりません。先生方はどのように人脈を築いていますか？
15		博士卒業の場合、年齢や社会経験不足が原因で企業は雇いたがらないという噂や懸念があります。これは本当なのでしょうか？
16		ノンアカデミアの非研究職に就職するとアカデミアに戻れないのが、不安の要因の一つだと思います。実際戻れないものなのでしょうか？
17	HIGO	パネラーの先生方はご自身の学生、ポスドク、助教のキャリア形成をどのように指導あるいは支援していらっしゃいますか？具体的なノウハウはありますか？
18	kinase	博士号取得者は年齢や専門的過ぎて企業に就職しにくいと聞くのですが、実際はどうなのですか？
19		不安を感じていない博士学生です。アカデミア以外でもアカデミア就職でも、自分の強みを認識するべき。修士の人間にできることしかできないなら、博士へ行った意味ない。自分の強みを見いだせないなら、どこの業界へ行っても同じ。自分の強みを知るには、多様な環境にでること。つまり、研究する日としない日をつくり、研究者以外と交流の場をつくる
20		日頃学生を見ていてアカデミック向き、企業向きあるいは研究以外に向いていると感じることはありますか？どんな部分にそう感じますか？
21	Rt	修士卒の製薬企業研究者です。以前の日本企業では修士卒を採用して育てるというやり方が多かったようですが、海外研究者とすぐに渡り合える博士卒を採る比率が上がっていると思います。修士卒の研究者は会社の研究で学位を得られれば幸せですが、実際はどうやって学位をとるかで苦労している人が多いです。
22	tanaka	自分がアカデミ、もしくは企業に向いているって何で決めるんですかね
23		修士課程までで身につけられる能力と博士課程で身につけられる能力はどのように違うのか、先生方の考えを聞きたいと思います。
24	Vet	ポスドクになって研究テーマに今より愛着が湧いたら、企業よりアカデミアを志望しそう。
25		キャリアパスがうまくいかなかった人達がどうしているかの統計等はありますか？
26	おやじ	企業に親しみがなくよく判らない
27		大学教員になっても学生の指導などでなかなか研究ばかりはできないという話を聞きました
28		男性です。正直、結婚したいけど、学生だと結婚してもらえないと思う。早く結婚したい場合は博士課程に行かない方がいいのか？
29		年齢についてはどのように考えるべき？
30	おやじ	就職にゴールがあるわけではないので、すこしでもやる気がでる職場にキャリアを変えていくことはいいことでは。
31	Vet	学会から帰ったら相談室覗いてみようかな
32	おやじ	普段からコミュニケーションをとれる人がいるといいですね。

No	ハンドルネーム	コ　メ　ン　ト
33		PI が研究大好きだと、進路相談してもいい答えが来なそうです
34	mame	私は大学の相談室（面談者が企業経験や人事経験あり）に相談して希望する仕事につけました。家族や先輩よりも客観的意見がもらえてとても頼りになり、自信もつきました。
35		企業で研究員をしている者です。社内では、社会人ドクターとして博士号をとるのが当たり前です。これは企業として珍しいのでしょうか？また、現在、就職せずに博士過程に進学している方は、社会人ドクターは考えていなかったのでしょうか？
36		大きい企業は、長期のプロジェクトが多く秘密情報も多い。日本の企業ではキャリアチェンジが多すぎはマイナスかもしれません。年齢も大切です。
37	おやじ	ライフイベントは先送りできないので、優先すべきです。
38	おやじ	ラボのボスに進路相談しても、研究しろとしか言われない
39		先生方は研究室のマネジメントで大変だと考える点はありますか？
40	Vet	もう最後か…NHK でこの企画やってくれたら毎週参加します！!
41	おやじ	広い視野。いろんなことに興味が持てる感性が重要では。
42	私大教員	アカデミアと言っても、色々なレベルがあり、これからは無くなる大学も出てくる。安泰ではない。
43	おやじ	森先生、谷澤先生、非常にいいお話ありがとうございました。
44	おやじ	ライフイベントが優先されるような研究者社会を作っていきましょう！!
45		企業は博士だからとらない、というのはスキルと同じくらい人物重視だから。博士課程は自己アピールやコミュニケーション力が同年代に比べて低いから企業はなかなか魅力に感じられない。逆にそれを感じさせない人や、それを認識して頑張っている人は採用される。
46	おやき	もっと時間があっても良かった。ためになりました iPhone から送信
47		地方私立大学の学部生です。今後の進路の参考にさせていただきます。

【池上彰と考える―これでいいのか日本の生命科学研究―】

●日　時：2014 年 11 月 27 日㈭　11：45 ～ 13：00

●会　場：パシフィコ横浜　会議センター 1 階
　　メインホール（第 1 会場）

●コーディネーター：
　池上　　彰
　（東京工業大学リベラルアーツセンター 教授）

私の知る限り、ほとんどの研究者「個人」は、誠実で、努力家で、しかも優秀です。しかし昨今の STAP 騒動をはじめ相次ぐ「不正問題」、そして対策が遅れている「ポスドク問題」など、テレビのバラエティー番組のネタにされてしまうほど、研究者の「社会」は一般社会から奇異な目で見られています。特に不正問題は研究者「個人」が防ごうと思えば防げる問題です。それでも繰り返し起こってしまう原因は一体なんなのでしょうか？

１つには研究者社会の持つ閉鎖性があると思います。個人レベル、研究室レベル、研究所・大学レベル、研究者社会レベルでの閉じた人間関係が「個人」を間違った方向に誘導してしまうのでしょうか。そしていつの間にか世間の常識からかけ離れた“ケンキュウシャ社会”を形成してしまうのかも知れません（カタカナで書いた理由は「研究する者」の社会ではもはやなくなりつつあり、別種の“固有名詞”化しつつあるという意味です）。軽度の閉鎖性が競争意識と国民性からきているとすれば仕方のない面もありますが、度が過ぎた閉鎖性は、もはや周りからのチェックが届かず、不正を未然に防ぐことができなくなる「害」以外の何者でもありません。「私は不正などしません。関係ありません。」という方がほとんどだと思いますが、ひとたび問題が起これば、多くの人が巻き込まれ、新たな規則ができ、全員が被害を受けます。これはやはりみんなで考えていかなければならない問題です。

状況打破の第一歩として、研究者以外の外部の方から客観的な評価あるいは「おしかり」を受けることは大切だと思います。今回の企画はそのような立ち位置からスタートしました。それで、「しかって」頂く方はどなたが適任かと考えましたところ、まず頭に浮かんだのは、様々なテーマに詳しく、ズバッとおっしゃる池上彰先生をおいていないのではということになりました。大変お忙しい方なので、断られるのを覚悟でお願いしたところ、「それは面白い、私も研究者の方にお聞きしたいことがたくさんあります。是非やりましょう。」とスーパーポジティブなお返事を頂きました。コーディネーターもお

引き受け下さり、「台本なし、会の流れはパネリストと聴衆の反応を見ながら進めていきます。」とのことでした。私は何回かパネリストをやらせて頂きましたが、今回ほど緊張したことはありません。

当日は予想通り、1,000名を収容するパシフィコ横浜の大ホールが一瞬にして満員になりました。最初に池上先生から「本日は容赦なく突っ込ませてもらいます！」との先制パンチが繰り出され、実際にかなり突っ込まれ返答に困るシーンがいくつもありました。パネリストの苦しむ姿をご覧になりたい方は、近々公開される予定の録画ビデオをご覧下さい。それ以外は、私たちの知るテレビ番組と同じように、池上先生の判りやすい解説とテンポのいい進行で、理系と文系の発想の違い、研究所と一般企業のガバナンスの違い、マスコミ報道の危うさ、ポスドク問題の重要性など、多岐にわたり意見が交換されました。新たな発見もあり大変有意義な会でした。終了後のアンケート調査でも約90％の方に面白かったと言って頂き、委員一同冷や汗をかきながら頑張った甲斐がありました。私としては、今回のシンポジウムで池上先生と分子生物学会に太いパイプができた！と思っており、これをきっかけに研究者社会がより開かれた、そして若者が魅力を感じて参加できるような、「大志を抱き研究する人の社会」になってくれると信じています。

（文責：座長・小林武彦）

〈アンケート〉　集計結果（四捨五入しています）

【問１】あなたの年齢は？

① 24歳以下	118	29.4%
② 25 ～ 29歳	69	17.2%
③ 30 ～ 34歳	36	9.0%
④ 35 ～ 39歳	40	10.0%
⑤ 40 ～ 49歳	76	18.9%
⑥ 50 ～ 59歳	49	12.2%
⑦ 60歳以上	8	2.0%
※ 未記入	6	1.5%
計	402	100.0%

【問２】あなたの身分・職階は？

① 学部学生	52	12.9%
② 大学院生（修士）	81	20.1%
③ 大学院生（博士）	35	8.7%
④ ポスドク	27	6.7%
⑤ 大学教員（助教・講師・准教授）	84	20.9%
⑥ 大学教員（教授）	30	7.5%
⑦ 研究員	23	5.7%
⑧ 主任研究員・チームリーダー・室長以上	11	2.7%
⑨ 企業	43	10.7%
⑩ その他	13	3.2%
※ 未記入	3	0.7%
計	402	100.0%

【問３】このセッションを何で知りましたか？（※複数回答可）

① 学会ホームページ	85	16.2%
② 年会ホームページ	76	14.4%
③ 会報	20	3.8%
④ プログラム集	167	31.7%
⑤ ポスター	62	11.8%
⑥ 会場内の広告	70	13.3%
⑦ フェイスブック	0	0.0%
⑧ クチコミ	36	6.8%
⑨ その他（年会アプリ）	2	0.4%
⑨ その他（通り掛かり）	2	0.4%
⑨ その他（記述なし）	5	1.0%
※ 未記入	1	0.2%
計	526	100.0%

【問４】このセッションはいかがでしたか？

① とても面白かった	195	48.5%
② まあまあ面白かった	161	40.0%
③ 普通	22	5.5%
④ あまり面白くなかった	9	2.2%
⑤ つまらなかった	4	1.0%
※ 未記入	11	2.7%
計	402	100.0%

【問５】今後このような試みを続けるべきだと思いますか？

① 是非続けるべき	307	76.4%
② 続けるべきだが方法を変えた方が良い	64	15.9%
③ やめた方が良い	5	1.2%
④ わからない	11	2.7%
※ 未記入	15	3.7%
計	402	100.0%

【問６】このセッションに関する感想をお聞かせください。

・最後の 15 分だけキャリアパスの話だったが、この議論の時間がもっと多くあるべきではないかと思った。
・時間の制約があり少し深みが足りなかった。
・時間が短いと感じた。
・時間が短い。
・もっと時間を長くしてほしい。
・もっと長時間聞いていたいくらいだった。次回はもっと長い時間講演していただきたい。
・STAP に時間とりすぎ（面白いけど）。
・キャリアパスを考える会になっていない（残り 10 分のみ討論）。STAP に時間取りすぎ。
・STAP より取り上げるべき問題があるはずで、キャリアパス委員会として題材を提示して議論を始めても良かったのではないか。
・STAP 問題に時間をかけすぎ。もう済んだこと。こだわりすぎ。時間をかけても本質的な議論にならなかった。不正・嘘・勘違い・サイエンスコミュニティにコンプライアンスが欠けていると思う。
・STAP 問題に関しては文系（一般人）の代表としての池上さん vs 研究者という構図が明らかで少し面白い部分もあったが、既に言われていることの塗り返しのようでやや冗長に感じた。教育に関して等、もっと強い意見のあるパネリストがいたら良いと思った。
・パネリストの先生方は立場等があって自由に発言ができないのかなと思った。もしかしたら名前などをふせて匿名にすればより腹の割った議論ができたのかもしれない。
・パネリストは話せる人でないともったいない。

・パネリストの人選は重要かと。もっと破天荒な人を入れてほしい。
・パネリストをもっとアクティブな人にすべき（小林先生レベルをもう一人くらい）。あともっと突っ込んだことを言える人。
・パネリストが差しさわりのない答えばかりなので、昨年のガチ議論のようにtwitterを活用して意見を取り上げてほしい。Ustreamで流すのも良いと思う。
・パネリストさんたちのバランスがちょっと悪いかなと思った。
・パネリストの人選に疑問。きちんと今回のために準備してきたのか？普段から問題意識をもって自分の意見をもっていない人がキャリアパス委員をやってるの？はずかしい。
・パネリストの選択は？
・パネリストの選択をもっと考えてほしかった。
・パネリストが消極的でまともな議論になっていない。立場があるから会場からヤジを入れた方が“本音”の議論になるような。
・パネリストにもう少し女性がいた方がよかった。あと、発言しそうな人を選ぶべき。少しおとなしすぎる人もいた。
・パネリストが全員アカデミアというのはいかがなものか？
・パネラーは様々な立場の人を選ぶべき。年齢（20、30、40、50、60代）、ポジション（学生～教授、ポスドク、助教、アカデミック外）、性別。
・パネラーに企業人も入れた方が良いのでは？
・パネラーをアカデミック分野からだけでなく民間からも選ぶと良いと感じる。コメントが画一的に感じた。
・パネラーは女性が少なすぎだったのでは？
・パネラーにもっとアクティブになってほしかった。
・パネラーの発言が貧しい。パネラーの立場の多様性が低い。
・パネラーの先生方にはもう少し歯切れよく話してもらいたかった。
・パネラーの発言が少ない。
・パネラーの発言者が意見を発言する場合がやや多いと感じた。もっと積極的に発言できるパネラーを選出してほしい。
・パネラーももっと率直に意見できる人が立つべき。
・パネラーの方の中にほとんど話されなかった人がいたのはちょっとどうかなと思ってしまった。自分はまだ受動的であると感じられたので、問題意識を持ちつつ、自主的に動けるように努力していきたいと感じた。
・何故パネリストとしてこの方がおられるのだろうと少し思ってしまうような方もいた。ズバズバ自由に意見を言う方がパネリストに選ばれてほしい。
・しゃべれないパネリスト、問題意識の低いパネリストは困る。
・せっかくの機会なのでパネリストの本音の意見が聞きたかったが、うやむやにしている方もいたのが少し残念だった。
・ひどいと思う。なぜこのパネリストの面々を選出したのか。池上さんを呼んだのは面白いと思った。そして池上さんはすごかった。だけどパネリストの先生方が自分を守りすぎていて面白くなかった。しかも、先生方はおそらく頭がよすぎて、相手に“分かるように”話をしていない。だから話が噛み合わず話が盛り上がらない。
・すぐに解決しない問題をdiscussionすることはおもしろいと思ったが、もう少しパネラーの方が発言して頂けた方が良かったと思う。
・もう少しパネリストを話す人を選択すべきだったと思う。
・委員の選抜方法が不透明のように思う。可能なら全会員から立候補＋選挙で選ぶべきと思う。頼まれて、断れなくて…などはあってはならないと思う。
・人選に問題（パネリスト）、ツッコミが足りなかった。
・コメンテーターは身内であるのでなかなか立場上言いにくいこともあるのでなかなか本音しんらつなコメントが出ない感じ。
・皆様立場のある方々なためかまだまだ本音が出ていなかったように思うす。立場のないポスドク等に声をかけて自由に発言してもらっても良かったかと思った。
・なかなか本音を言うのが難しそうだった。
・先生方はより積極的に発言すべきだと思う。もっと本音でdiscussionをしても良いと思う。
・立場のある先生方なのであまり思い切った意見（個人的な意見）を聞くことができず残念だった。もう少し話の好きな人がパネリストに並んで頂けたらと思った。
・6人の回答者をどのように選んだのか分からないが、あまり積極的に発言されない方は選ぶべきではないのでは。
・先生方からもっとはっきりとした考えを聞けるとよかった。あまり激しい意見は避けている感じがした。
・コメンテーターがポジションのある人ばかりなので、ポスドクの方やドクターの方の生の声でdiscussionしてほしい。
・若い先生方の発言がもっと聞きたかった。
・もう少し議題を整理して話をできる人をパネラーに。助手、ポスドクレベルの方もパネラーに入れてほしい。
・楽しかった。しっかり自分の意見、話、質問に対して答えられる人を全員においてほしかった。
・ディスカッサーの歯切れが悪い。
・みなさん他人ごと。
・「STAPがあるのかないのか？」との問いに「（自然科学の立場としては）論文が撤回された以上ない。」と明快に回答しなかったパネリストがいたことにいたく失望した。「責任の所在」について。「論文の責任は責任著者にあり、雇用機関には人事を行った責任がある。」と明言したパネリストがいなかったことに失望した。
・研究者なら不正に怒らなければ。コミュニケーションの難しさを言いながら、「ない」とも言えない“先生”に驚いた。証拠がないなら科学的には「ない」でいいと思う。どういう“立場の難しさ”があるのか奥の闇を感じた。それでは若者に魅力がなくても仕方ないよね。

・おじさんの話が多いので、討論する人こそ男女のバランスが大切だと思う。
・理事長と年会長がパネリストでないのはなぜ？
・あけすけトークはしない / できないのでは議論は深くなりづらい。表層的であまりおもしろくない。
・何がやりたいのか良くわからなかった。不正の問題を取り上げるのかキャリアパスをやりたいのか焦点がclearではないかと。事前に打ち合わせを行うべきでは？
・話し合うテーマをもう少しつめて各パネリストの意見をあらかじめまとめておく方よい。パネリストの人選。
・先生方の質問内容は予め用意しておいた方が効率よく進行できたと思う。
・事前にお題を練って回答してないように感じた（全体に。一部の回答はさすがにうなるものがあった）。
・発想は面白いが話のつながりが悪い。多少の事前打ち合わせは必要ではないかと思う。
・もう少し発表内容を事前に用意した方が良い。
・論点を絞って討論して欲しかった。前半部（不正）の議論がもう少し深めて欲しかった。
・問題点が散漫になってしまった感があった。流動性を高めても生活や待遇の改善がされないとポスドク問題は解決しないと思った。
・正直期待はずれだった。
・内容がない。
・キャリアパスの問題が総括されたのはよいがもう一歩の踏み込みが足りない。
・池上さんの漫談状態であり、研究者側に自己の考え方をきちんと表明できないことを露呈してしまっていた。（五島さん、小林さんを除く）結局、池上さんの言う「政策の失敗が科学の発展をさまたげる」現実を打破しない限り、日本の将来はないと思う。長期的視点を持った生命科学者を政策決定現場に送り込むことを学会として考える時であると思う。
・池上さんが具体的に示してくれたのに対して研究者代表者があいまいにしか話さなかった点について、それがSTAP問題のうまく解決できなかった原因と思った。残念。
・池上さんがキャリアパスの話をふってくれるまでは、キャリアパスの話ではなかったので少し残念（時間として短かった）。でも、研究者としてのあり方、一般社会との差異について改めて考えさせていただいた。
・池上氏のみが問題点をclearに提示。
・真面目な議題なのに司会者がちゃかしてしまい不快。発表者の意見が一般論にすぎない。
・少し内容に偏りがあったように思う。STAP以外の話もディスカッションして欲しかった。
・研究者とそれ以外の人たちの意見から問題が強く浮き彫りになったと思うが、解決の糸口になるような意見がほとんどなかった。
・前半の話では具体的な話で本音を引き出すのは難しいと感じた。もう少し一般的な話をした方がよかった。ある程度の事前の打ち合わせがあった方がよかったのでは？後半の話をもっと突っ込んで話しを聞きたかった。
・興味深い話だったが、時間が短いのと、結局深いところまで話せないのだなと思った。
・STAPにしてもpostdoc問題にしても、今非常に重要な問題。もう少し時間を長くして、会場の意見も聞けるようにした方が良いと思った。
・「生命科学の論文の何割かは再現できない」という話を聞いたことがありますが、もう少し広く問題を取り上げてほしかったと思う。STAP細胞の問題は特殊すぎるのでは。
・もっと具体的な話を聞ければと思った。聴衆からからのコメントか意見をもらえば良かったのでは。
・新しい取り組みで興味深かった。ただし議論が深まらなかったのが残念。
・話の展開が遅かった。しかし時間的に仕方がないのかもしれない。
・もう少し科学に突っ込んだ話もほしかった。
・2013年の際の公開討論を受けて、その後学会としてどういったアクションをとるべきか議論するような内容がほしい。（大学）構成員の考えを文科省やその他政治家へ伝えることから改善が始まるという結論だったハズ。今年は一昨年までと同じくガス抜きで終わってしまった印象。
・言いたいことをもっとしっかり発言してほしい。社会に発信すべき学会であるべき。
・パネリスト以外にも発言の機会を。
・会場からの発言もあった方がおもしろくなったかもしれません。
・参加者全員で言いたい放題。Discussionすればよいかも。
・学生の意見も交ぜたら面白くなるのではないか？
・色々なお話が聞けて面白かったが、生命科学の専門外の池上彰さんを呼んで話を展開していたが、このセッション自体に来ている人（研究者等）は専門内の人が多く、もっと多くの専門外の人々に今回の話を池上さんにしてもらえればと思う。（他人任せになってしまいますが）
・もっとaudienceをinvolveすべきであった。real timeでアンケートとれるなど…。コメンテーターは年齢、背景、立場など異なる人を集めた方がよいかも。STAPのdiscussionをしてもあまり意味がない。何も新しいことはでてない！もっと本質に迫るdiscussionをすべきであった。池上さんの司会の上手さ故最後の方でようやく盛り上がってきた。
・事前に“話題として取り扱ってほしいこと”などのアンケートをとっておくべきだと感じた。
・今回のセッションの人以外にもクリッカー等で会場全体の考えがわかるようにして欲しい。
・学界内のみでなく民間や政界関係者とのdiscussionの機会を設けることが必要ではないかと思う。
・フロアとのディスカッションを増やした方がいい。
・会場との交流があるとよいかと。
・日本の科学レベルの維持が重要。
・人材育成の改革を考えるべし。

・研究者の未来は明るくないと感じた。
・将来の身のふり方に悩むようになった。
・博士の学生やポスドクを貴重な人材と考えているのが間違いだと思う。珍しいが貴重ではないと思う。
・流動性→任期付→保障なし→魅力ないだと思います。流動性でなぜ解決するのですか。そもそもの枠を増やさないとどうしようもない。
・企業の立場から、取りたいポスドクがいれば中途でも取る。なかなかそういう人はいない。
・ポスドク問題の扱いが少なかった。
・あまりまとまりがなかった。話自体は面白かった。キャリアパスの話がそこまで多くなかった。STAPはわりとどうでもよかったが、社会の視点が知れてよかった。
・学問レベルがポスドクで上がったらしいが論文数はどんどん減ってるのに…。
・リーダークラスの demand は大きくない。テクニシャンの需要が最も大きいため高給として採用することになるポスドクの需要は少ないと思う。また企業のマネージメントクラスのポストも大きくなく、数年成果を上げたテクニシャンの人達のポストも必要。この分野の予算が大きくならない限り、なかなか現在の問題は解決できないと思う。もちろん能力があるなら別だと思うが…。
・他のテーマについても聞きたかった。
・流動性で解決できるのか？そうではないだろう。需要が社会にあることが前提ではないのか。流動性で需要は生み出せない。
・少し STAP のことが多すぎたように感じる。もっと一般的なこと、例えば大学院重点化の是非、ポスドク大増員の罪悪などについて広く意見を聴きたかった。池上さんは流石に話をまとめるのがうまくていらっしゃいましたが、今ひとつ突っ込めていない気がした（最後の 5 分くらいはとても良かった）。
・もちろん STAP に関する今回の騒動も大きな問題ですが、これをどのように解決するかというのは様々な要素が絡まりすぎていて、正直外野の研究機関にいる者としては、これに関してはセッションで時間を取らなくてもよいかと思う。何らかの議論が 1 ～ 2h で出るとは思えない…。後半での、トップに立つ研究者のマネージメント能力についての議論は思うところがあって、非常に面白いものであった。研究者の働く環境、ポスト、教育について、次回も取り扱っていただけると嬉しい。更に言えば、匿名でも良いですから、若手や学生の意見も拾っていただけると、つまり現場の声をもう少し拾っていただけると、より面白くなると思う。
・ポスドクに対する企業の demand について。
・問題点はわかったが解決法がわからない。
・特に生命科学分野の谷間に生れたなと感じた。教育システムをしっかり見直してほしい。
・無能な教育者が無能な研究者を育てていることがわかった。
・昨年より良い企画だと思う。
・メディアで取り上げられるような有名人を招くことがとても新鮮だった。
・オーガナイザーの人選がやはり良かったと思う。当事者意識を持って話を聞くことができた。STAP の件がなくとも池上さんのような実力も人気もある方とコラボレーション？できたら良いなと思う。あと、学会以外でもやってほしい。
・有名人を招へいして参加者を増やすのはよいアイデアだった。テーマがやや総花的だった。
・とにかく池上氏であったことが一番。
・著名な先生方が、緊張しながらも回答しているところが新鮮だった。池上さんの回答を噛み砕いてくり返して説明するのが良かった。池上さん自身のご意見ももっと聞きたかった（質問するばかりでなく）。
・池上先生の前で萎縮される先生方が印象的だった。
・池上先生を含めた 7 人の先生方の考え方や哲学のようなものに触れることができ興味深かった。本題以外の問題についても時おり触れられており参考になった。「イントロが書けない学生」というのは興味深かった。
・池上氏の力はすばらしかった。是非続けてほしい。若い学部生、修士学生に雰囲気を伝えるしくみを是非考えて下さい。
・池上彰さんの進行能力がとても高く、チョイスしたことがポイントだったと思う。
・池上さんの起用が問題点をはっきりとさせている。
・池上さんの鋭い指摘がかっこよかった。研究者の世界と一般の世間ではだいぶ考え方が違うんだということがわかってよかった。
・池上さんからの視点と理系の視点で生命分野の問題をきけて良かった。
・池上さんの考えをもっともっと聞きたかった。司会者としてはやはりすばらしいと思った。
・池上さんの話の進め方がとても聞きやすくおもしろかった。
・池上さんからの突っ込みが厳しく聞き応えがあった。
・池上先生の「つっ込み」はなかなかするどく興味深かった。
・池上彰さんの鋭いコメントが面白かった。
・池上さんがズバっと聞いてくれて世の中の意見が聞けて参考になった。
・池上先生のパネリストの方の意見をまとめ上げ発展させていく能力がすばらしいと思った。
・池上さんの痛いところを突いていく発言がとても痛快だった。本音を引き出していくトーク力は流石だった。
・池上さんの引き出し方に感心した。
・池上さんの引き出す力がすごい。
・池上さんのまとめおもしろかった。行政に訴える道筋考えなきゃと思った。
・池上彰先生がよかった。
・池上さんはテレビのままだった。
・池上先生はじめ多くの研究機関、大学の先生方のお考えを聞けたことが良かった。

・池上さんが話を拾ってつなげ整理しつつ進めて下さったので頭の中で整理しやすく楽しむことができた。
・池上さんのお話が聞けてよかった。
・池上さんの言葉の拾い方、問題提起への展開があざやかだったため飽きることがなかった。ただ、問題点は露わになったが対策となると得策がでるまでには至らなかったようである。
・池上さんの力を感じた。
・池上氏がコーディネートするというそれだけで議論が閉じた印象から開いた印象に変わってよかったと思う。
・池上先生の司会は流石というか、私たち（学生）はまだどちらかというと一般人に感覚が近いですから、普段研究生活をしていて疑問に思うこと、不満であること等ご質問して下さり面白いものだった。ですが、池上先生もしくは私たちが望むような議論が必ずしも起こらなかったというのが今日の印象です。先生方の立場上、意見の表現が難しいのは理解できますが、個人的な感想としては、新たに得るものは特になかった様に思う（池上先生を生で見られたのは嬉しかったです）。
・池上さんからのいわゆる「文系」からの意見を聞く機会をもてて良かった。実在ケースには発言しにくそうだったので、仮想問題ケースを取り上げて（つくって）受け取り方の違いを論じるなどしてほしい。
・池上さんのお話が聞けてよかった。
・池上先生が科学をどう捉えてどのように発信していくのか気になった。
・池上さんのおかげで時事がいっぱいからんで楽しかった。
・池上さんは流石に頑張って突っ込みまとめていた。対して研究者たちは、せっかくの機会であるのに掘り下げる方向にならず、言い訳的な発言が多かった様に思う。しかし後半は池上さんの突っ込みにより、研究者側から本音を引き出す事に成功していた。研究を始める時、目標をしっかりと見つけてからスタートすべき事。英語ではなく論理構成能力に問題アリ。マスコミの立場、組織の上層部が事態を収拾する手順がまずい事、文科省の思いつきで誤った政策が多く、その尻拭いもできていない事など、有用なコメントも出た。
・池上氏のようにまとめる力のある学界外の方を発掘し、お招きする試みを続けて下さい。
・池上さんの問題提起が核心をついていておもしろかった。
・池上さんと同じサイドに立つ人間がもう１人いても良かったように思う。
・池上さん。お忙しい中ありがとうございました。プライドをもって研究がんばります！！
・歯に衣きせぬ池上先生のご意見はこれまでのこういった会にはない展開で大変面白かった。
・来年も池上先生のさまざまな意見を聞きたい。
・非常に面白かった。池上氏の進行は退屈させなかった。
・研究者と池上さんのやりとりがすごくためになった。
・このセッションは全国に放送すべき。
・とても参考になった。TV（民放）で放送してほしい。
・参加者の多くは研究者であり、STAP 問題などに対する意見、姿勢は共通に思える。もっと一般向けに（放送するなど）広く伝えるべきだと思う。
・もっと文系、一般の方にも見てもらえばより良い。
・文系の人（池上さん）も話すことは新鮮で非常によかった。池上さんでも理系の理解していない部分があるのは驚いた。
・文系側からの疑問という視点はおもしろいと思った。
・理系陣営 vs 池上先生（文系）という図がそんなに文系理系区別できるのかと思ったが、やはり結局組織のマネージメントという一般的な話になった。研究界の特殊な事情を掘り下げたわりには意見が一般的すぎて全く解決への見通しがつかない。このようなキャリアを考えるセミナーは多くあるがいつも同じようなオチになるのが不満。
・理系の分野の人と文系の人の感覚の違いにあらためて新鮮だった。
・文系の人々の疑問がどこにあるのか、どこがズレているのか予想外な面が多かった。
・テーマに関する内容を文系と理系の違いから聴くことができた。
・文系と理系のコミュニケーションエラーという話題が印象に残った。文系の方からすれば理系の技術や実験というものは具体的なもので「あるとは言えないがないとも言えない」という不明瞭な回答を研究者がするというのは納得がいかないのではないかと思った。もっと相互理解のために歩み寄ることが大事だと感じた。
・非常に面白かった。特に研究者と一般の認識の違いを改めて認識することができた。このような認識のズレを一般の方にも理解してもらう機会があると良いと思う。STAP の事に関してもポスドク問題に関しても、根本には安易に大学院へ進む学生の増加があるのではないかと思う。もっと少数精鋭でやった方が良い教育ができるのではないかと思う。
・世間の考え方と研究者の考え方の違いを噛み砕いてわかりやすく聞くことができた。ぶっちゃけ話も多くて楽しかった。
・研究者と世間の考え方の違いがわかって新たな発見だった。
・科学におけるコミュニケーションギャップなど興味深いお話を多く聞くことができて良かった。
・興味深い話が多く今まで考えたことがなかった社会との関係を考えるいい機会になった。
・科学者側のサイドの話を聞いて同じような考えを持っていたり、自分とは違う考えを持っていたりしてその意見が聞けておもしろかった。逆に社会にも問題があると思うのでそっちも聞きたいと思った。
・科学研究者の共通の問題と一般人への成果報告の難しさ。
・博士修士者の活躍の場として研究者と一般の方との間をつなぐ様なポジションも重要だなと思った。
・社会からみた研究のあり方について新しい切り口からお話いただけた。
・一般と研究者の差がわかりやすかった。特に会社のトップのあり方などすごく理解できた。
・科学者と一般の人の考え方の違いを浮き彫りに出来た事が今日のセッションの良かった事だと思う。
・文系と理系、大学と企業の違いを知れて楽しかった。しかし、問題提起の話だけでなく解決策（個人で取り組めるもの）を挙げるというのもほしかった。

・アカデミアの人は議論が好きなだけで何のための議論なのか目的がないまま進んでいる。今回の議論された内容も１ヶ月後には忘れられるだろう。アクションを踏まえた議論をした方が良い。研究の議論とこういったシステム的な問題は議論のやり方を変えるべき。
・研究者の常識と社会の常識の違いを改めて知れて良かった。
・研究の先端を担っていらっしゃる先生方、文系の方両者の意見を知れてよかった。
・一般社会の認識と研究者の立場からの認識の違いが明確であったと思った。
・研究者と一般の人との考え方の違いがわかった。普通テレビや新聞などではわからないような事も話してもらえたので、とてもよかったと思う。
・理系 vs 文系的な趣きがあったので、そうなら文系の人がもう少し多くいてもよかった。
・東大の先生が本音で話して良かった。
・白髭さん面白い。
・小林先生のような対話が上手な方、白髭先生の様な自身の意見を言って下さる方のお話は非常に面白かった。
・小林先生と池上さんの対話（1 対 1）という形式でも良かったと思う。（あるいは斎藤先生と小林先生と池上さんの３人）途中から、白髭先生が色々発言され面白かった。
・斎藤先生の話が分かり易かった。
・先生方が本音を語って下さってよかった。話しを引き出す池上さんの手腕はおみごと！
・試みは面白いと思う。何が変わっていくか見ていきたい。
・異分野の人を取り込んでいるのはとても良いと思う（去年の文科省の人を呼んだのもとても良かった）。
・非常に興味深い話ばかりで参加して良かった。
・改めて科学と社会の関係を考えるきっかけになった。
・予想以上に面白かった。なかなか聞けないようなエピソードもたくさんあったのでとても勉強になった。
・個人の論理構成力の話からポスドク問題まで広く興味深く聞けた。
・経営・マネジメント力の自覚が必要と感じた。
・教育ということでいえば、「いついかなる場合にもウソはだめ」以外に言うべきことはない。研究技術の伝承はまた別。金の多い少ないに関わらず、やりたい研究したらいい。
・修士卒業後は企業研究者になる予定だが、今後のキャリアパスを考えさせられるセッションだった。家庭の経済的余裕、雇用の先の見通しの明確さ、自分の意気込みがあればキャリアは変わっていたかもしれないと思うと共に今からでも色々やりようがあるのではないかと感じた。
・現場の方たちの様々な率直なお話が大変興味深かった。
・根本的な問題の１つは大学院教育の不備にあると思う。
・打ち合わせのないやりとりでおもしろかった。
・後半のアカデミックキャリアのテーマは具体的でとてもおもしろかった。一般化、具体化して話すことの難しさをセッションでも感じた。
・いろんな先生方の考え方を知れた。自分の考え方の刺激になりためになった。
・何が問題なのか今までになかった見方が入ってきて興味深かった。
・生命科学分野の抱える問題を改めて整理し考えることができた。
・問題がわかりやすく議論されていてよかった。
・イメージはあるがハッキリした言語で表現できないサイエンスの問題点を、池上さんがビシッとまとめて言語化して皆と共有できたのはよかった。こうした、文系と理系の強みを tool としての関わりはもっとした方がよい。
・理研等の個人を指す話題は話しにくそうだったが、ある程度幅広い話については参考になった。
・今回は STAP ネタがあったが次回は地味目になるだろう。
・STAP についてのマスコミ報道について、米国の Science Friday という（元 NPR の番組）Podcast では発表直後に科学者のゲストコメンテーターが「こういう驚くべき論文発表については､2 つめの再現性をみた論文が発表されることが大事なんだ」という冷静な発言をしていた。科学研究には発表内容に誤りが含まれうる（不正は許されないが）ことを報道側も是非理解し、一般に啓蒙していただきたいと思う。
・STAP 細胞の報道以来、サイエンスの研究のあり方を見直す必要性が出てきた。本日のセッションでは様々な立場からの意見が飛び交い、自身の考えを見直すきっかけとなった。
・STAP 問題を中心に外部から見た生命科学研究について論じられていたが、まだ学部生の立場でもすぐに取り入れたいと思うような内容が多くとても為になる話だった。研究に打ち込んでいるうちに文系の方や世間の感覚からどんどん離れていってしまうのはやむを得ないことだと思うが、だからこそ今日の様な機会を増やし世間の風を取り入れるべきなのだと考えた。
・今回 STAP 細胞についての議題だったので大変興味深かった。
・非常に興味深く聞かせて頂いた。STAP 騒動や不正問題等池上さんの的確な質問に深く切り込んだお話が聞けて来てよかったと思った。
・生命科学研究、アカデミックキャリアについて良くも悪くも現実を知ることができたと思う。社会のあり方、見方を傍観するだけではなく働きかけをしていくことの必要性を感じた。
・今から自分が進む分野の問題を認識できた。
・研究室のあり方を考えさせていただける機会となった。
・普段聞けない話が聞けて面白かった。
・キャリアパスは重要なので続けてほしい。
・視点が社会の流れに合っているし実際に議論するのが必要な問題で学会という場でやったのがとてもよかった。

・もう一度生命科学分野に関して考えることができた。多くのパネリストの意見を聞けて面白かった。
・今まで着目していなかった考えを聞くことができて非常に有意義な時間だった。
・興味深い内容だった。一般と研究者との認識の違いがあることや研究界における問題点を改めて理解することが出来た。
・素晴らしい刺激となった。
・素晴らしい企画だった。
・内容は暗かったけれど、立派な先生方の意見を聞ける機会は貴重だと思った。
・学生への教育について見直そうと思うきっかけになった。研究者の常識≠学生にとってのあたりまえに行う事。
・研究者たるは文理を問わず哲学がなければならない。
・むしろパネラーの方々の考え方を知ることができて大変ためになった。
・Top が責任を取るという発想が一般的には当然で、STAP の件ではそのような対応を取らなかったのが批判の的になっているという考えは新鮮だった。
・以前から思っていた問題点について様々な意見が聞けて興味深かった。
・とても良かった。もっと時間をとって discussion したい。もっと多くの方が discussion に参加できればよいと思う。
・本分野における様々な問題点に関する議論を深く掘り下げて非常に興味深かった。
・より具体的に問題点を考えること。
・非常に考えることが多く有意義だった。
・常識のある研究者を入れての議論なのでまともだった。世間の反応には嫌気がさしていたので少しすっきりした。池上さんはやはり進行上手でよかった。
・普段聞けない思いを聞けて非常にためになった。
・研究はおもしろい仕事だと思う。とは言え若い人は現実を見ている。論点がズレてるなぁってのが印象。
・同一労働、同一賃金にすれば？キャリアは評価できるので !! 評価システムのため日本での論文雑誌の充実。それを評価対象にする。
・研究者や政治家だけでなく多くの日本人が目先のことにとらわれすぎているのではと思う。もっと先を見て行動することが大事なのではないか。
・日本は勤務地を転々としにくいというのは本当にそうだと思った。都心部以外が住みにくいというのもあるのではと感じた。
・新しい視点で理系社会を見直すことができた。
・日頃メディア目線の話に違和感を持っていたが、私と同じような考えが今日の話題になっていたので安心した。
・理系の責任論に対する理解が池上氏に伝わっていればいいと思う。今年の反省として広まってほしい所。
・普段では聞けない様な（メディア等などで）セッションが聞けてとてもためになった。
・科学に携わる者としての視点だけではダメなんだなと改めて思った。
・あらためていろいろな人が発言をしてコミュニケーションをとることが重要だと思った。
・日本の生命科学研究について、先生方のお話を聞きながらよく考える良い機会になりました。
・自分の立ち位置を外から見る考えるいい機会になった。
・ズバリな意見に普段感じていることをこの場で共有できたのかなと思う。
・違う分野の人の意見を聞きながら専門的な知識・情報を互いに共有できたのでとても勉強になった。池上先生のするどい質問に対するパネラーの先生方の反応もおもしろかった。
・生命科学分野のキャリアについてたくさんの問題があるためいろいろな意見を聞けてよかった。
・ポスドク･ポジションの問題､不正問題､研究者として必要なマネージメントとは？など今この分野としても社会としても「学問」という閉鎖されたものを「社会」に広げていく上で必要なものを学べたと思う。
・今まで表面化をしようとしなかった問題を考えるきっかけと色々な考えを知ることができた。とても面白い企画だったと思う。ありがとうございました。
・ドクターに進学した場合の苦労については知らなかったので驚いた。
・学ぶ←まねぶ≠コピペ。教育には時間、手間、コストがかかる。小林さんは池上さんに負けないくらい話し上手。
・医学教育では、医療事故や医療安全の講義があった。今回のセッションで基礎研究ではこのような教育がないことを認識した。
・他の立場（文系、メディア）からの意見を聞く機会でありとても面白かった。
・修士１年の私にとって科学の世界の全体像を把握でき、その中で浮き上がる問題を認識するよい機会であった。若手の研究者にとって科学の世界における「当たり前」を知らない問題を早期につぶすためにも是非継続してほしい。Ex）責任問題のトークは興味深かった。
・このような機会に参加することができてとても良かった。ありがとうございました。
・分野が異なる人とのセッションは興味深いと思う。
・大学での講演等、学会以外でもこのようなセミナーやセッションを行ってほしいと思った。
・研究者が職を得て成果を出し税金を納めることが社会の為になるし、国民の税金を使って育てた研究者の社会への恩返しになると思う。
・分子生物学会も曲がり角に来ていると思う。生化学会等も巻き込み、企業セクターも入れて発展を考えるべき。
・実験や研究のうまさとマネージメントや教育のうまさは違うという事はどこでもある事なのだなと思う。
・自分自身がまだまだ未熟な身にも関わらず辛口を書いてしまってすみません（アンケートなので、匿名ということを最大限に生かしました）。分生は会員数も多く大きな力があると思う。去年の近藤滋年会長が行ったように、“本質”を得た学会へと進化していってほしいと思っている。自分も若手の１人としてがんばる。

・研究者にマネージメント能力は必須。
・文化的、社会的な背景のある人を呼んでもらえるとうれしい（ただし logical な話がいい）。
・“トップの責任”についてだったり“STAP あるなし”については、どの部分が考えの違いに関与しているのかという点が自分の中で明らかになって良かった。ポスドク問題は特に自分も今学生で考えている部分なので興味深かった。
・私もまだまだがんばらないといけない立場なので、好きなことに夢中になり、その過程でさまざまな能力を身につけていけるよう学び続けたい。
・研究者としてのあり方を考えさせられた。
・能力が必ず生かされると思うのでやはりやりたいことを続けるべし。
・様々な意見やコメントを聞くことができてとても参考になった。
・なかなかおもしろいセッションだった。
・なかなかスリリングな討論で面白かった。
・パネラーの先生方の顔が大きく映し出されたのが良かった。
・若手には希望をもって頑張ってほしい。
・最後の景気づけが一番良かった。
・今やっている研究は面白いんだよと学生に伝えていかなければならないなと再認識した。池上さん、ありがとう！
・もっと長く聞きたかったくらい。おつかれさまでした。
・内容は興味深かったです。
・興味深かった。
・勉強になった。感謝している。
・勉強になった。
・よかった。司会者大事。
・よかった。
・とても参考になった。
・ものすごくおもしろかった。
・大変勉強になった。
・人間っていいなと思った。

【問７】来年以降のセッションで取り上げて欲しいテーマがあればお教えください。

・生命科学の将来性について（今回の総括に関わる内容で）
・池上彰第２弾キャリアパスを本当に考える
・PD 問題→キャリアパスの多様性
・ポスドク後のキャリアパスについて（問題点）
・ポスドクのキャリアパスについて
・ポスドクのキャリアパス、科学立国を目指すなら体系的なキャリアパスを作らないと良い人材も集まらなくなるだろう
・若手研究者に向けたキャリアパスと社会の問題
・博士取得者の日本での研究ポストについて
・ポスドクという高学歴フリーター増加の問題
・ポスドクの現実
・ポスドク問題（同コメント計３件）
・（特に学生向けの）ポスドク問題について
・ポスドクに行きたい人を対象に焦点を絞ったテーマ（ポスドクを繰り返す人、就職する人、助教になる人、何が違くてこのような分岐ができるのか、また PI が採用する際に見る所とかも知りたい）
・ポスドク etc のポジションを作るためには？
・Dr、PhD の問題
・学位取得後の進路の例など
・院生・博士が研究の道に進むメリット・デメリットなど
・講師が変われば同じテーマでも質が変わると思う
・同様のテーマを取り上げてもらうと、実際に自分が疑問に思っていることの解決策を見出せるような気がする
・同じテーマでもまだまだ議論すべきことがある
・今回と同じテーマは繰り返すべき
・同じ試みをやって欲しい
・基本的に同じでよい
・テーマを固定？
・元気の出るテーマなら何でも
・ポジティブな方向のテーマを取り上げて欲しい
・STAP その後
・STAP Cell のその後
・研究不正をもっと取り上げてほしい

・不正経理について
・研究費獲得の問題
・研究費のありかた
・公的研究費の平等性
・研究の本質と現在の研究システムの問題点（科研費、ポスト…が全て？）
・ブラック研究室問題
・ブラック研究室について
・現在の評価システムについて
・業績至上主義でよいのか？
・業績（論文、研究費）ばかりが問われている、オリジナリティーを育てるにはどうすれば良いか、ビックデータ、ビックサイエンスが国策として進められている問題
・国のキャリアパスに対する方策について
・科学政策について
・日本の研究支援
・新技術の展望、特に基礎研からの…
・企業 vs 象牙の塔みたいなもの、研究と応用の間
・工学とライフサイエンスの関わり方
・再生医療について
・がん治療について
・哲学、科学哲学
・異分野からの交流はなんでもやって下さい、法科大学院とのセッションもいいのでは？
・企業や異業種の方とのセッション
・企業とアカデミアの関係
・企業、ベンチャーの現実について
・企業の視点からみたキャリアパス
・企業のトップの人と研究者
・理系の職難について外部の意見を聞きたい
・アカデミアと企業の理系の人々の話し合い
・生命科学ベンチャーの社長をパネラーとしたセッション
・海外に行けない場合、どのように英語を上達させるか
・英語論文の執筆、論文の効果的なまとめ方
・研究者は海外の研究経験は必要か？
・new post の公募は日本と欧米でどう違うのか？
・海外での研究環境の現状など
・グローバル化、流動化など重要だと思うが、その一方で研究の深さがなくなっている or 継続性がなくなっていると思う、この２つは一部相反していると思うが、それをどう解決していくのか？
・研究者の流動性とは何か？
・研究者が政治、社会にどのように声を発していくべきか？
・研究をいかに社会に還元するか？
・社会が生命科学をどう考えているか、またどう対応していくべきか
・社会におけるサイエンスのあり方、ひとの財産であるところのサイエンスについて（サイエンスをもたなかったら、文化人ではないのではないかということ）
・生命科学に対して「これは何の役に立つのか？」という質問が意味することを議論してほしい
・理系の考え方と一般の考え方のギャップを埋める方法について
・一般の方とのギャップについてまた取り上げてほしい、研究者が当たり前だと思っていることが、社会では当たり前でないこともまだ多くあるのではと思う
・何故人は人のことばかり責めるのか？他人のふりみて我がふり直そう
・科学と市民のつなぎかた、ここのギャップは何があるのか、どんなことに市民は興味があって（こういうとこに池上さんは最適だと思う）研究者はどのように科学の魅力を伝えていくべきか（市民に迎合するわけではないがお互いのギャップを埋める糸口をみつける、海外でのアウトリサーチを参考にしたり…）
・文系と理系をガチバトルさせてほしい
・もう少し文系理系の認識差について話が聞いてみたい、理系からの「文転」的転職の事なども？
・本日セッションでお話のあった一般社会とのコミュニケーションエラーについて掘り下げていただきたい
・科学コミュニケーションについて引き続き取り上げてほしい
・一般の人から見た生命科学の魅力、生命科学をいかに魅力ある分野にしていくか（学生が“研究者になりたい！”と思うような）、他分野と比べてどうか
・博士そして研究者が若手にとって「魅力」ある職業にするにはどうすればよいのか（多くの学生にとっては、一流企業に行くことが勝ち組で、研究や博士を目指す人々がほとんどいないという問題がある）
・研究者として今後必要なマネージメントは？

・学生教育について今まで所属した研究室内でのことしか分からない為、他研究室で工夫している所などを取り上げたテーマで行って頂きたい
・理科系の人の教養の劣化
・研究室間（大学、企業、国や独の研究所等）の協力体制（共同研究室等）の現状と今後の課題、展望について
・教育の仕方について話題にあがったので、尾木先生に研究者育成教育の在り方をお話いただきたい
・研究者の教育
・雇用問題と教育問題、今回のパネラーはある程度成功している人達なので問題の実害を感じていない、パネラーの内容を変えるべき
・若手育成のための（テーマ）
・生命科学分野の人材をどのように育成すべきか
・大学院生の教育
・科学発展の未来等より若い研究者の育成
・大学のカリキュラムを考えよう
・大学の現状を世に知らせる
・大学院重点化やめるべきか
・大学統合
・50 代の研究者による「これまでの私の研究者としての歩み」をテーマにしたシンポジウム
・中学、高校教育での生命科学の取り上げ方
・リスクコミュニケーション
・サイエンスコミュニケーション
・女性研究者のキャリアパス
・女性のキャリアパスについて
・女性研究者のライフイベントについて
・女性がテニュアを取るまでの社会問題（家庭か研究か）
・（自分が女だからかもしれないが）添付資料の様な内容
・企業で働く研究者について、女性が研究員で働くことがやはり難しいので（企業、大学含め）そのような内容を取り上げていただきたい

【問８】本年会での属性調査（添付資料）をご覧になった感想をお聞かせください。

・女性が少ないといって増やす必要はない。“女性だからだめ”という意識さえなければ良い。やりすぎは女性の過大評価につながり男性差別となり得る。私は女性ですが、女性だからとちやほやせず能力でみてほしい。女性を調子に乗らせないで。
・自分の周りでは女性であるからという理由で業績を出すのが難しいとか活発な活動が否定されるというようなことはないと感じているので、各男女比率の違いが環境に起因するということは今は考えていない。ワークショップを主催できるポジションにつく難しさについてはわからない。
・無理に女性比率を上げようとしなくても良いのでは。
・男女比なんて気にする必要はないと思う。
・女性が増える事に何のメリットがあるのか？
・発表したい人が発表すればいいと思う。ある特定の人達（女性をとか、この年代をとか）を増やそうとすると無理が生じてしまうのではと思う。
・無理な affirmative program につなげない様にしてほしい。
・バランスのとれた研究環境というのは男女比に限ったことなのか疑問に思う。
・性別を理由に機会を失われるのは問題だが、そもそもの人数や割合が違うので差があっても特に問題はないと思う。
・女性の割合が意外と高いと感じた。無理に女性を増やそうとせず、教育や、その人の実力の向上もしっかり考えてほしい。
・「機会の平等」と「結果の平等」を混同してる印象を受ける。
・属性ではなく優秀な人が前に出られるか否かが問題。
・私は女性研究者だがすばらしい研究に性差は関係ないと思う。
・公平に選んだ結果このような比率ならば特に問題ないと思う。
・男女比＝差別に取れるような表現に見える。
・男女で分けてデータを示すことに意味はないと思う。
・調査結果が意味があるかわからない。
・どの程度バランスがとれた状態を理想としているのかよくわからない。
・自発的に申し込んだ女性の採択率はいかがだったでしょうか。
・女性比を論じる前にその理由を調査すべきだし、そうでなければ改善にはつながらないのではないか？
・女性発表者の採択率だけが上がっても女性研究者の労働に関する根本解析にはならない。何のために女性比率を上げようとしているのか？
・女性が少ないのはわかるが、数を増やすためだけでは意味がないと思う。「社会のあり方」的な事ではなく、「研究」に性差は必要ないのではないでしょうか。
・女性の比率を数だけで判断するのはあまり正しくないと思う。ただし、女性がやっていけない研究職のあり方を問い直すのは重要だと思った。

・一般社会の縮図だと思った。女性学会員の研究環境（保障など）まで言及があれば良かった。
・女性比率にこだわらなくても良いのでは。その人がその発表方法やポストに満足しているかが重要。
・たしかに女性の割合が少ないと思う。しかし何が原因なのか明確にはわからない。研究者として一本でやるなら、人生の全てをそれに掛ける気持ちがないとやっていけないと Boss に言われているので、Life-work バランス、ライフイベントを大切にしたいと考える女性会員が少ないのは当然のことかもしれない。
・ドクターコースに行く女性が少ないと思うので当然だと思う。職を得るまで異動の多いこと、研究室スタッフが少なくポスドクが激務であることから、家庭と研究職獲得が成立しにくいことを女性を増やしたいなら認識してほしい。
・女性がやはり少ないということを痛感した。ただ女性を優先的にとる（能力が同じなら）という募集が最近多いが、現在研究所にいて感じるのは特にシニアのポスドク（男性の）が女性 PI に対する非難が激しい。一連の STAP 問題も、本質とずれた問題がマスコミに流れたのは小保方さんに対する周りの男性研究者のねたみをすごく感じた。上に立っても（PI になっても）女性に対する目はとても厳しいと感じている。
・そもそも分母が少ないので。
・女性ががんばっていると思う。
・思っていたよりも女性が活躍されていると思った。
・女性が多くなってきていて女性ががんばれる分野である。
・思っていたよりも女性が多い。
・生命科学分野は比較的女性が多い。
・一般演題発表に大学院生が多いことがわかった。
・大学院生の演者が多いという印象を受けた。
・学生、院生の人が意外と多いと思った。
・学部生が予想以上に人数がいた。
・女性が少ない。
・女性研究者が思ったよりも少なかったことが気になった。
・まだまだ女性が少ないと思った。
・まだまだ女性が少ない。
・女性研究員が少ない。大学院まででて企業の総合職（研究分野）で働き続けたいが、研究という特性上残業も多く、家庭をもって働き続けるのは非常に難しいと自分自身感じるところがある。
・思ったよりも若いと思った。
・総数に占める女性の割合がそもそも少ないと思うので、年会での調査についてはあまり驚きはない。参加者を研究者での男 / 女性数 etc で比を出した上で、データがあると良いかもと思う。（それでも女性の割合が少なければ問題かと思う）研究というよりか、女性の働き方全体的な方にフォーカスしても結果に大差ないのでは？というか差があるのかは知りたいところ。
・スピーカー、オーガナイザーの女性比率は年代を反映して上がってきていると感じた。ピアー（peer）の目で能力のある人を登用するようにしていけば自然とそうなると思いますが、特に男性の方にはぜひ、常に「色眼鏡でみていないか」negative にも positive にも、自身への問いかけを忘れないようにすることは必要かと思う。
・若手の女性研究者が増えている。今後、その研究者たちがベテランとして活躍し、オーガナイザー、スピーカーの女性率が上がっていけばよいと思う。上げていかなければいけないと思う。
・（ポスターの）スピーカーは院生、ポスドクの方々でもたくさん発表されているが、オーガナイザーはキャリアを積んでいる方がされるという印象。やはりその点で、結婚などでどうしてもブランクが空いてしまうことが多い女性は敬遠されるのではと思う。
・以前に比べると女性の比率が増えてきているように感じたがそれでもシンポジストやオーガナイザーのレベルで男女比に差があると思った。
・シンポジウムオーガナイザーの名前を冠したシンポジウムにおいて、女性のオーガナイザーが多くたのしみにしていたが、発表者はやはり片寄りが強い。
・学生時点での男女比が正会員とでかなり変化しているのが興味深い。ポスドクになる男女の意識差とかありそう。
・学生会員比率やポスター発表比率を見て、今後の女性研究者の活躍が期待できると思った。
・結果は興味深いが問題は参加者側？主催側？対策が変わってくるかと。
・この分野に対して男女比率に着眼していたが、発表者に対して企業関係者が少ないという事が今回のディスカッションの中での問題としてあると思った。
・確かに会員の女性数に比べて、オーガナイザー・口頭発表者における女性比率が少ないと思った。しかし、学会において発表するのはためになることを発表できる人がすべきだと思う。そのため性を対象とした調査は目的を違えると無意味なものとなるのではないかと思う。
・パネリストの選別が全てを示してる。男女差別ではないが、女性研究者にそれだけの能力がある人がいないだけでは。ただ若い研究者は増えているので今後は期待できる。
・上の世代に女性研究者が少ないのは当たり前なので、今後を見ていかなければなんとも言えないと思った。
・現在のところ、中核をなす立場の女性研究者が十分に育っていないので、シンポジウムオーガナイザー（SO）＆発表者における女性比率が少ないのは当然。逆にこれを過剰に問題視して、能力のない女性を無理矢理 SO にしないで下さい。十分に育ってから登用することが大事。
・抜本的に女性を積極的に採用するシステムをつくらないと変わらない。
・女性研究者の養成支援は社会的に行動、本格的にやる必要がある。
・女性の比率が上がれば本分野の社会的認知度も上がるだろう。

・この属性調査を急に渡されても、ただ情報を見せられただけで感想を述べづらい。「あー、女性数は少ないけど徐々に増えてるんだなー」くらいしか感じられない。「バランスのとれた研究環境」って何？
・調査の結果どうアクションするのか（しないのか）の方が気になる。
・調査結果の活かした方を知りたい。
・おもしろい。次回のテーマにしてもらいたい。原因を追求して解決方法を提案してほしい。
・学会に参加する人の構成がわかって良かった。
・気になっていたことだったので知ることができてよかった。
・学生会員の割合が高い貴重な学会で学生の勉強になる機会となる良い学会だと思った。
・全体の話だけでなく個人個人の考えも載せてほしいと思った。
・若い人が年を重ねると drop out していく世界だとわかった。
・若い視聴者がまだまだ少ないなと思った。もっと学部生も来て自分の研究に生かしたりしてほしい。
・生命科学は出口を意識した学問であるというのであれば、もっと企業からの参加があって良いと思う。
・企業参加者がもっと増えるような工夫をしてほしい。
・オーガナイザーの男女比は今後の推移を見ないと。
・女性比率は以前から大きく改善している感じはしない。年ごとの推移も知りたい。
・たまに行うと学会の構成がわかってよい。
・会員の割合（男女）と結構合っているなと。
・継続的変化を見てみたい。
・予想通りの結果。シンポジウム等での女性比率は少しずつではあるが上昇しているのでは？
・納得。
・ある程度予想通り。
・こんなものかなと感じた。
・まとめが分かりやすかった。
・内容は良くわかった。
・だから何だ。
・特に問題ないと思う。
・参考になった。
・よい。
・大変労力のかかっている力作だと思う。ただ、このような資料を一部の委員に委せてしまうのは、あまりに負担が大きいと思うので、専門の人員を雇うか外注すべきだと思う。
・一部だけなぜ under represented という英語表記にしたのか？
・6）がおかしいグラフずれ。学会なんだからしっかりしてほしい。
・6）のグラフが一番下のものしかラベルされていないため見にくい。
・モノクロなのでグラフの色分けが見にくい。
・図や字が小さくて見づらい。
・字が小さく、わかりにくいので、工夫して下さい。
・図が見にくいと思う。
・見にくい。
・見づらい。何がいいたいのかがわからない。
・白黒印刷だと見にくいと思う。まだ大きな変化、進展はないように思う。
・白黒でわかりにくい。
・カラーの印刷にしてほしい。
・特になし（同コメント２件）

【問９】その他、ご自由にどうぞ。

・年会の２つの枠をキャリアパスで使う必要はない。
・前枠でセッションを入れない方がいい。
・昼食の時間をつぶすようなプログラムの組み方は止めて欲しい。
・時間帯がお昼なのでランチョンにするか時間をずらしてほしい。
・前後のシンポジウムとワークショップの時間を考えるとランチョンにするべき。
・今回の年会は discussor の導入もあり、発表者にとって有意義だった。その一方で、ワークショップでの口頭発表で「これからこんなことをやります」という意味不明、意義不明なものがあり残念に思う。
・人気があるためか並びが長すぎたのが気になった。
・会場への入場をもう少し早く始めて定刻通りにスタートすべきでは。